Osaka Medical College Faculty of Nursing

大阪医科大学看護学部

年報

2015年(平成27年度)

Annual Report 2015

大阪医科大学　看護学部 2015 年度年報　目次

はじめに

Ⅰ．　沿革……2

Ⅱ．　看護学部教員組織
1．教員構成及び教員数 ……3

Ⅲ．　年間事業
1．年間事業活動内容 ……5
2．2015 年度看護学部予算執行額……7
3．学事一覧……8
4．学生在籍数 …… 12

Ⅳ．　運営と教育活動
1．運営組織…… 13
2．看護学部センター
看護実践研究センター…… 14
教育センター…… 16
学生生活支援センター…… 20
3．看護学部委員会
予算委員会…… 25
実習委員会…… 26
ウェブサイト委員会…… 27
看護研究雑誌編集委員会…… 28
物品管理委員会…… 29
就職支援委員会…… 30
国家試験対策委員会…… 31
年報編集委員会…… 32
広報委員会…… 33
卒業研究に関する倫理審査会…… 34
4．大学院運営委員会 …… 35
5．看護学部教育活動
1）授業科目一覧 …… 37
2）各領域の教育活動 …… 49
6．大学院教育活動
1）授業科目一覧 …… 59
2）博士前期課程修了者学位論文タイトル一覧 …… 64

Ⅴ．研究活動
1．研究実績
1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況 …… 65
2）各自の業績（外部資金獲得除く） …… 69

Ⅵ．社会活動 …… 83

Ⅶ．地域・社会貢献 …… 89

Ⅷ．その他 …… 91

はじめに

平成 27 年 6 月 1 日から大槻勝紀新学長のリーダーシップの下、世界有数の医療系大学を目指した取り組みが始まった。学長が立ち上げた研究戦略会議及び教育戦略会議で、学長の教学改革方針である 5 つの矢(Innovation, Globalization, Social Contribution, Translational Research, Open Mind)について、看護学部の教育及び研究の構想案を示すことが求められた。日本赤十字九州国際看護大学名誉学長喜多悦子先生は、「グローバル人材育成の目的は、Human かつ Scientific で、何処でも、何時でも、どんな環境でも誰とでも協調できる（=global）実践保健専門家の養成であり、看護学をグローバル科学性（＝社会変革のための人道科学）に確立させることを通じて、あらゆる世界の地域に安全と安心を保証することである」と述べている。本学部が目指す看護学教育は「いつでもどこでも誰に対してでも最善の看護を提供する看護実践者」の育成であり、この言葉はまさにグローバル化を意味している文言であることがわかる。この文言を再度改めて見直し、看護学部／看護学研究科は、世界に羽ばたくプロフェッション、つまりグローバル化を目指した看護専門職者を育成するために、「教育の質転換」「国際交流」「研究拠点形成」を本学部のビジョンとして活動することを明確にした。

教育戦略の概略について述べると、①Innovation では、優れた看護人材育成、教育の質転換のための公的資金の獲得、②Globalization では、国際的視野を持ったグローバル人材育成、③Social Contribution では、超少子高齢化対策、良質な医療人の育成、地域医療での取り組み、④Translational Research では、本学独自の教育研究の展開、⑤Open Mind では、情報共有と見える化である。また、研究戦略の概略について、①Innovation では、本学部の研究拠点形成、Globalization では、国際交流、その中でも特にアジアを拠点とした取り組み、③Social Contribution では、看護の質向上につながる看護研究、④Translational Research では、本学独自の地域や近隣アジアとの研究の展開、⑤Open Mind では、情報共有と見える化である。教育戦略では、看護学部教育センターを中心に、研究戦略では、看護学部看護実践研究センターを中心に検討し、看護学部全体としての方向性を深め、全教員の共通理解を深めていくことが来年に向けて実施すべき課題であると考えている。また、研究戦略については看護学研究科の存在が重要になる。したがって、来年度は看護学部看護実践研究センターを看護学部と看護学研究科に位置づけたセンターとして活動を実施する予定である。看護学部構想の具体案については、短期目標、中期目標、長期目標に区分されるが、医療や看護の時代の流れに遅れないよう、また先見性をもって対応していくことが必要だと思われる。アカデミックな大学として本学の特徴を模索しつつ本学部が取り組んできた 1 年間の教育、研究、社会貢献について、2015 年度年報としてまとめた。

大阪医科大学看護学部長
林　優子

Ⅰ．　沿革

沿革

1927（昭和 2）年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927（昭和 2）年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929（昭和 4）年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946（昭和 21）年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946（昭和 21）年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948（昭和 23）年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951（昭和 26）年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更に依る）
1952（昭和 27）年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952（昭和 27）年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959（昭和 34）年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965（昭和 40）年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978（昭和 53）年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982（昭和 57）年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程(全日制)設置認可
2009（平成 21）年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010（平成 22）年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012（平成 24）年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013（平成 25）年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014（平成 26）年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設

Ⅱ．　看護学部教員組織

１．教員構成及び教員数

教員数は、下記の表の通りであり、34.5 名（看護職 30.5 名、医師 3 名、教養 1 名）非常勤教員 4 名、実習補助員 8 名である。

（2016 年 3 月末現在）

領　域	教員構成・現員数（定数）						
	教授	准教授	講師	助教	計	非常勤教員	実習補助員
基礎看護学	1（1）	1（2）	0（0）	2（2）	4	0	0
急性期成人看護学	1（1）	0（1）	1（0）	1（1）	3	0	2
慢性期成人看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	3 （病休 1 含む）	0	1
精神看護学	1（1）	0（1）	1（0）	0（1）	2	0	0
老年看護学	1（1）	0（1）	1（0）	1（1）	3	1	0
小児看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	3	1	0
母性看護学・助産学	1（1）	0（2）	2（0）	1（1）	4 （育休 1 含む）	0	3
在宅看護学	0（1）	1（0）	0（0）	1（1）	2	0	1
公衆衛生看護学	1（1）	1（2）	1（0）	0（1）	3 （育休 1 含む）	2	1
看護実践発展	2（2）	0（1）	1.5（0）	0	3.5	0	0
医学系 （公衆衛生学・精神医学・内科学）	3	0	0	0	3	0	0
人文社会系（哲学）	0（1）	1（0）	0	0	1	0	0
計	13（15）	6（12）	7.5（0）	8（10）	34.5	4	8

Ⅲ.　年間事業

１．年間事業活動内容

看護学部事業計画として、大槻学長の教学改革方針に沿った教育戦略会議及び研究戦略会議での医学部との連携、大阪医科大学病院看護部及び三島南病院等の看護部との連携、本学部センター及び委員会活動を推進した。

1）看護学部の活動内容

センター・委員会	活動内容
看護学部教育センター	1. カリキュラム評価と改善案の作成 2. 新規の授業評価及び実習評価の実施と見直し 3. 医看融合教育の実施と充実への検討 4. 成績評価及び進級判定の再検討 5. セルフトレーニングコーナーの活用による自学自習の促進プログラムの企画・運営 6. 教育環境整備（演習室の使用、PC 備品機器及びセルフトレーニングコーナー）の評価と改善 7. 教員及び院生の教育実践力を高める FD の計画と実施 8. 新任教員への看護学部に関するオリエンテーションの計画と実施
看護学部学生生活支援センター	1. チューター制度の充実 2. 公共性のある奨学金の開示の促進 3. 保健管理室との連携の緊密化 4. 学生からの要望に対する対応 5. 学生自治に向けた支援 6. 学外合宿の支援
看護実践研究センター	1. 市民公開講座の実施（1 回） 2. 看護研究セミナーの実施（2 回） 3. 看護実践研究センター活動報告・研究活動報告会の開催 4. 国際交流セミナー・異文化交流シンポジウムの開催 5. 外部資金獲得に向けた積極的取り組み 6. 看護研究セミナー参加者への支援 7. 卒業生のキャリアアップや研究支援体制の整備 8. 研究成果の発信の場の設置と研究活動の活性化 9. 附属病院への研究支援の連携強化
予算委員会	1. 看護学部年間予算の適正化 2. 平成 27 年度予算執行報告 3. 平成 28 年度予算案作成（10 月）
実習委員会	1. 実習連絡協議会の企画、運営（7 月と 3 月） 2. 実習連絡会議のあり方の検討と調整 3. 看護学実習要綱（共通事項）、各領域実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正と取り纏め 4. 領域別実習のグループ編成、実習オリエンテーションの企画・　運営、実習全体に関わる調整

	5. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント等の分析と今後の対策の検討
ウェブサイト委員会	1. 看護学部各領域の内容の充実 2. 看護実践研究センターの内容の充実 3. 学術情報（研究雑誌）更新 4. 英文ホームページの修正 5. 就職支援情報の掲載
看護研究雑誌編集委員会	1. 第 6 巻発行と投稿への働きかけ 2. 2 名の査読体制の維持 3. 査読者を広く学外に求めるための基盤作り計画
国家試験対策委員会	1. 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 成績不振者に対するチューターによる学習指導の強化 3. 平成 27 年度国家試験対策の模試や対策講座の実施 4. 平成 28 年度国家試験対策の企画及び予算案の作成 5. 国家試験対策活動の保護者への周知 6. 模試成績不良者の対策：講座受講時に座席指定（前方）
就職支援委員会	1. 保健医療行政施設及び就職情報企業からの新旧資料の整理整頓 2. 進路選択・面接・履歴書・マナー講座など就活ガイダンス（2 回/年） 3. 就職活動及び就業の調査票の配布と収集 4. 学生への個別相談や指導日の定期開催（1 回/月） 5. 本校への来校者による応接録のファーマット作成及び就職情報の定期的電子通知（1 回/月）
看護学部年報編集委員会	1. 平成 26 年度年報の集約、冊子と電子媒体での発行 2. 平成 27 年度年報の取り纏め
物品管理委員会	1. 教務関係備品・消耗品の在庫管理と点検 2. 平成 28 年度教務関係物品購入予算案の作成 3. 教務関係備品の貸し出し管理
看護学部広報委員会	1. オープンキャンパスの企画・運営 2. 看護学部案内書の企画・作成 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施 4. 看護学部の教育・研究活動の学内外への紹介 5. 看護学部案内書サブツールの企画・作成 6. 学校訪問の調整・実施
卒業研究に関する倫理審査会	1. 卒業研究倫理審査の実施と評価 2. 申請に関する手順及びフォローチャートの作成と実施 3. 卒業研究におけるデータ取り扱いに関する指針の作成と実施 4. 審査方法の充実・改善

2）看護学研究科の活動内容

看護学研究科運営委員会	1．入試関連の実施と評価 2．学位論文、学位記授与等に関する基準の作成 3．ホームページ更新と入試相談会等の広報活動の実施 4．FD 計画と TA 向けのガイダンスの実施 5．授業評価の実施と分析 6．CNS コース課題への対応

２．2015 年度看護学部予算執行額

予算執行額　　73,570,127 円

【内訳】

看護学部教育経費	41,534,933 円
看護学部奨学金経費	31,500,000 円
看護学部研究活動経費	535,194 円

３．学事一覧

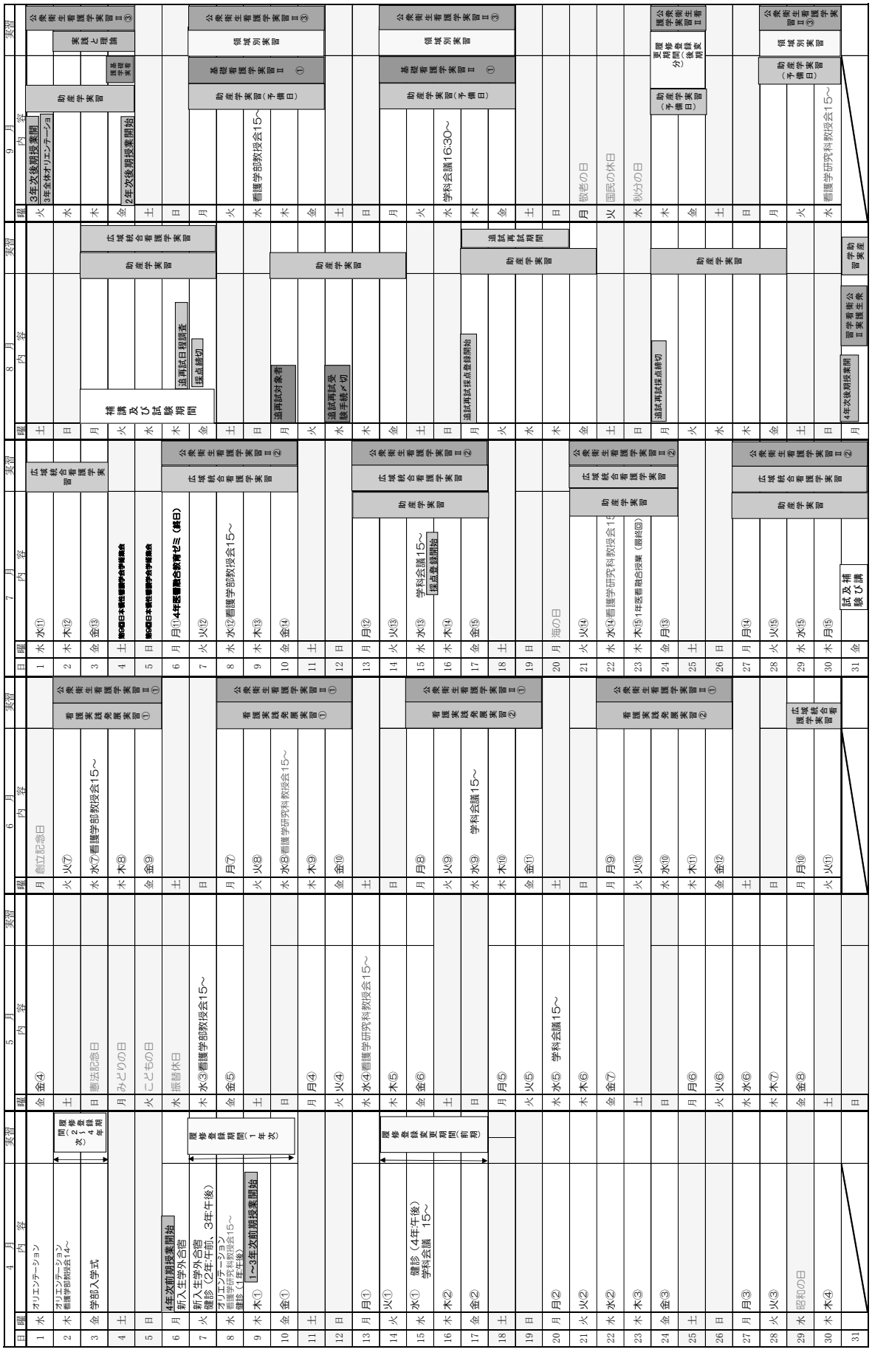
1）看護学部の学事一覧

表 1 参照

2）看護学研究科の学事一覧

表 2 参照

表 1　看護学部　平成 27 年度学事一覧



日	曜	内　容
1	木	木① 1・4年次後期授業開始
2	金	金①
3	土	
4	日	
5	月	月①
6	火	火①
7	水	水①
8	木	木②
9	金	金②
10	土	
11	日	
12	月	体育の日
13	火	火②
14	水	水② 看護学部教授会15～
15	木	木③
16	金	金③
17	土	解剖慰霊祭
18	日	
19	月	月②
20	火	火③
21	水	水③ 学科会議16:30～
22	木	木④
23	金	金④
24	土	
25	日	
26	月	月③
27	火	火④
28	水	水④看護学研究科教授会15～
29	木	木⑤
30	金	金⑤
31	土	

助産学実習（予備日）　領域別実習　公衆衛生看護学実習Ⅱ④

日	曜	内　容
	日	
	月	月④
	火	文化の日
	水	水⑤
	木	木⑥
	金	金⑥
	土	
	日	
	月	月⑤
	火	火⑤
	水	水⑥ 看護学部教授会15～
	木	木⑦
	金	金⑦
	土	
	日	
	月	月⑥
	火	火⑥
	水	水⑦ 学科会議16:30～
	木	木⑧
	金	金⑧
	土	
	日	
	月	勤労感謝の日
	火	火⑦
	水	水⑧ 看護学研究科教授会15～
	木	木⑨
	金	金⑨
	土	
	日	
	月	月⑦

領域別実習　公衆衛生看護学実習Ⅱ⑤

日	曜	内　容
	火	火⑧
	水	水⑨
	木	木⑩
	金	金⑩
	土	
	日	
	月	月⑧
	火	火⑨
	水	水⑩ 看護学部教授会15～
	木	木⑪
	金	金⑪
	土	
	日	
	月	月⑨
	火	火⑩
	水	水⑪ 学科会議16:30～
	木	木⑫
	金	金⑫
	土	卒業演習報告会
	日	
	月	月⑩
	火	火⑪
	水	天皇誕生日
	木	追再試日程調査
	金	
	土	
	日	
	月	
	火	
	水	
	木	

領域別実習　公衆衛生看護学実習Ⅱ⑥　実践と理論　公衆衛生看護学実習Ⅱ

日	曜	内　容
1	金	
2	土	
3	日	
4	月	月⑪
5	火	火⑫
6	水	水⑫
7	木	木⑬
8	金	金⑬
9	土	
10	日	
11	月	成人の日
12	火	火⑬
13	水	水⑬ 看護学部教授会15～
14	木	木月⑫
15	金	金⑭
16	土	
17	日	
18	月	月⑬
19	火	火⑭
20	水	水⑭ 学科会議16:30～
21	木	木⑭
22	金	金⑮
23	土	
24	日	
25	月	月⑭
26	火	火⑮
27	水	水⑮看護学研究科教授会15～
28	木	木⑮
29	金	月⑮
30	土	
31	日	

実践と理論　領域別実習

採点登録開始（全授業）

日	曜	内　容
	月	
	火	
	水	
	木	
	金	次年度履修登録ガイダンス（1年次）午後
	土	
	日	
	月	
	火	
	水	看護学部教授会15～ 採点締切（全授業） 追再試対象者調査
	木	建国記念の日
	金	
	土	
	日	看護師国家試験
	月	
	火	保健師国家試験
	水	追再試対象者発表＆追再試再試受 BJ産師国家試験 学科会議16:30～
	木	
	金	追再試再試受験手続〆切
	土	
	日	
	月	追試再試採点登録開始
	火	
	水	1年追再試験：2/22～2/26 2年追再試験：2/29～3/2 看護学研究科教授会15～
	木	
	金	
	土	
	日	
	月	
	火	
	水	
	木	
	金	次年度履修登録ガイダンス（2年次）午後

補講及び試験期間　領域別実習　次年度履修登録ガイダンス（3年次）午後　実践と理論　採点締切（全授業）　追再試対象者調査　実践と理論　基礎看護学実習Ⅱ②　領域別実習　追試再試期間　1年　基礎看護学実習Ⅱ②　領域別実習　追試再試期間　2年　実践と理論

日	曜	内　容
	火	実践と理論
	水	
	木	
	金	卒業式
	土	
	日	
	月	追試再試採点締切（全授業）
	火	
	水	進級判定（仮　2年次→3年次のみ） 看護学部教授会15～
	木	
	金	
	土	
	日	
	月	
	火	
	水	学科会議15～
	木	
	金	
	土	
	日	
	月	春分の日
	火	
	水	看護学研究科教授会15～
	木	
	金	
	土	
	日	
	月	
	火	
	水	
	木	

追試再試期間　2年

備考：基礎看護学実習Ⅰについては10月1日～12月17日の期間、毎週木曜日に行う

表 2　看護学研究科　平成 27 年度学事一覧

10　月			11　月		12　月		1　月		2　月		3　月	
日	曜	内　容	曜	内　容	曜	内　容	日	曜	内　容	曜	内　容	曜	内　容
1	木		日		火	（院）火⑭	1	金		月	（院）月⑭	火	
2	金		月	（院）月④	水		2	土		火		水	
3	土	医療科学①② 臨床薬理学①② 療養生活支援看護学特論①② 地域家族支援看護学特論①②	火	文化の日	木		3	日		水		木	
4	日	看護学研究法応用論（保健統計）①②	水		金		4	月	（院）月⑪	木		金	
5	月	（院）月①	木		土	看護教育課程論①⑤ 臨床薬理学①⑤ 療養生活支援看護学演習③③ 地域家族支援看護学演習③③	5	火	（院）火⑫	金		土	
6	火	（院）火①	金		日		6	水		土	看護倫理⑨ 療養生活支援看護学特論⑨ 地域家族支援看護学特論⑨	日	
7	水		土	看護教育課程論④④ 臨床薬理学⑦④ 看護学研究法応用論（実験法）④④ 療養生活支援看護学演習③③ 地域家族支援看護学演習③③	月	（院）月⑬	7	木		日		月	
8	木		日		火	（院）火⑬	8	金		月	（院）月⑮	火	
9	金		月	（院）月⑤	水	看護学研究科教授会15～ （論文審査対象者の主査・副査の決定）	9	土	看護教育課程論⑨　看護倫理⑩⑪ 療養生活支援看護学演習③③ 地域家族支援看護学演習③③	火		水	看護学研究科教授会15～ （学位授与可否審議・投票）
10	土	医療科学④⑤　看護倫理①② 看護学研究法応用論（保健統計）③④ 療養生活支援看護学演習①⑤ 地域家族支援看護学演習①⑤	火	（院）火⑤	木		10	日		水	看護学研究科教授会15～ （修士論文受理報告）	木	
11	日		水	看護学研究科教授会15～	金		11	月	成人の日	木	建国記念の日	金	
12	月	体育の日	木		土	看護教育課程論⑤⑤　看護倫理③⑤ 療養生活支援看護学特論①① 地域家族支援看護学特論①①	12	火	（院）火⑬	金		土	
13	火	（院）火②	金		日		13	水	看護学研究科教授会15～ （各論文審査対象者の口頭試問日程報告）	土		日	
14	水	看護学研究科教授会15～	土	看護教育課程論⑤⑤　看護倫理⑤⑤ 療養生活支援看護学特論⑦⑦ 地域家族支援看護学特論⑦⑦	月	（院）月⑬	14	木		日		月	
15	木		日	看護学研究法応用論（実験法）⑤⑤	火	（院）火⑭	15	金		月		火	
16	金		月	（院）月⑥	水		16	土	臨床薬理学⑨ 療養生活支援看護学特論⑨⑨ 地域家族支援看護学特論⑨⑨	火		水	研究計画発表会（D1＋M1（長期除く）＋M2長期
17	土	医療科学⑤⑤　臨床薬理学③④ 療養生活支援看護学特論③④ 地域家族支援看護学特論③④	火	（院）火⑥	木		17	日		水		木	
18	日	看護学研究法応用論（保健統計）⑤⑤	水		金		18	月	（院）月⑰	木		金	
19	月	（院）月②	木		土	（午前）看護学部卒業演習発表会 臨床薬理学⑤⑤	19	火	（院）火⑭	金		土	
20	火	（院）火③	金		日		20	水		土		日	
21	水		土	看護教育課程論⑦⑤　臨床薬理学③⑤ 看護学研究法応用論（実験法）⑦⑤ 療養生活支援看護学演習③③ 地域家族支援看護学演習③③	月	（院）月⑱	21	木		日		月	春分の日
22	木		日	（D1）研究計画発表会	火	（院）火⑪	22	金		月		火	
23	金		月	勤労感謝の日	水	天皇誕生日	23	土		火	修士論文発表会（10:00～）	水	
24	土	医療科学⑦⑤　看護倫理③④ 看護学研究法応用論（保健統計）⑦⑤ 療養生活支援看護学演習③③ 地域家族支援看護学演習③③	火	（院）火⑦	木		24	日		水		木	
25	日		水		金		25	月	（院）月⑲	木		金	学位記授与式（医学研究科と合同実施）
26	月	（院）月③	木		土		26	火	（院）火⑯	金		土	
27	火	（院）火④	金		日		27	水		土		日	
28	水		土	看護教育課程論②⑤　看護倫理⑦⑤ 療養生活支援看護学特論②⑤ 地域家族支援看護学特論②⑤	月		28	木		日		月	
29	木		日		火		29	金	修士論文提出締切（17:00迄）	月	（修正版）修士論文提出締切（17:00迄）	火	
30	金		月	（院）月⑦ 修士論文タイトル提出（17:00迄）	水		30	土	看護倫理⑨ 療養生活支援看護学演習③③ 地域家族支援看護学演習③③			水	
31	土	看護教育課程論①② 臨床薬理学⑤⑤ 療養生活支援看護学特論②② 地域家族支援看護学特論②② 看護学研究法応用論（実験法）①②			木		31	日				木	

４．学生在籍数

1）看護学部

平成 27 年 5 月 1 日現在

学年 （入学定員）	1 年 (85)	2 年 (85)	3 年 (85)	4 年 (85)	合計 (340)
男	3	2	9	7	21
女	86	86	88	78	338
計	89	88	97	85	359

2）看護学研究科

【博士前期課程】　平成 27 年 4 月末現在

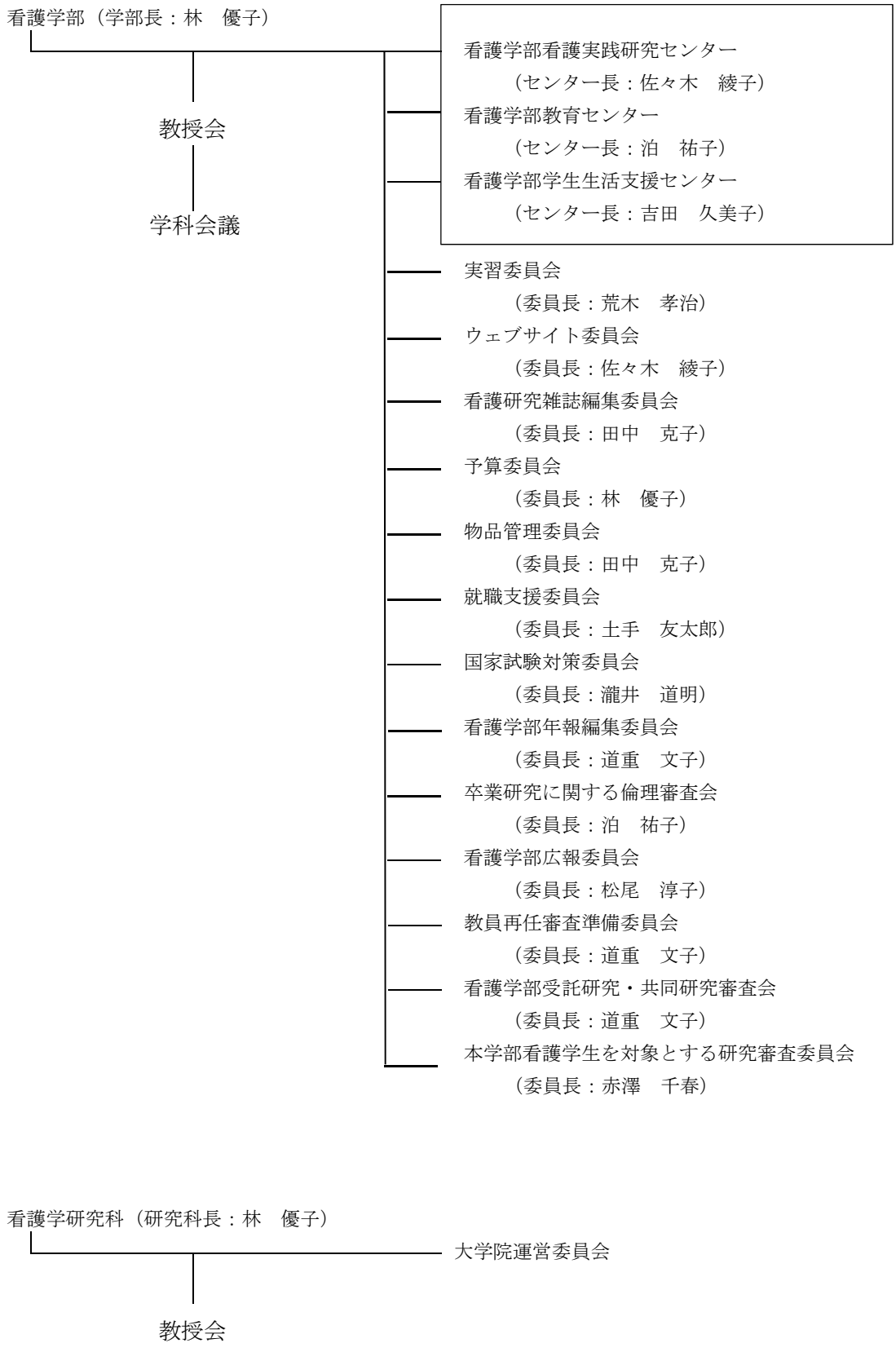
コース	専門分野	1 年	2 年	合計
教育研究コース	看護技術開発学	1	0	1
	移植・再生医療看護学	2	2	4
	がん看護学	2	0	2
	慢性看護学	0	0	0
	精神看護学	1	0	1
	母性看護学	1	1	2
	小児看護学	1	0	1
	地域看護学	0	1	1
高度実践コース	慢性看護学	0	1	1
	精神看護学	0	2	2
	母性看護学	0	0	0
	小児看護学	1	1	2

【博士後期課程】　平成 27 年 4 月末現在

領域名	専門分野	1 年	2 年	合計
療養生活支援看護学	看護技術開発学	0	0	0
	移植・再生医療看護学	0	3	3
	がん看護学	3	0	3
	慢性看護学	1	0	1
	精神看護学	0	0	0
地域家族支援看護学	母性看護学	2	0	2
	小児看護学	2	2	4

Ⅳ.　運営と教育活動

1．運営組織（センター及び委員会組織図）



２．センター

センター名	看護実践研究センター
目的	本センターは本学部内、大学内をはじめ、外部機関及び地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに、その成果を発信することを使命とする。
構成員	佐々木綾子（委員長）、赤澤千春、カルデナス暁東、瀧井道明、楢原理恵（6 月末退職）、松尾淳子、横山浩誉、佐野かおり（7 月から）、（月野木ルミ）、宮崎裕子（学務部）
活動計画	1. 研究実績の集約及び実践応用の機会に関する事項 2. 看護に関する研究情報の収集と内外への発信に関する事項 3. 看護実践研究の支援に関する事項 4. 看護生涯学習の支援に関する事項 5. 国際交流の支援に関する事項 6. その他、センター長が必要と認める事項
活動概要	1. 委員会の開催 11 回の定例委員会と 2 回の臨時委員会を開催した。 2. 第 4 回市民公開講座の開催 日時：2015 年 11 月 7 日（土）　参加者数：66 名 テーマ：「笑いの力で健康増進」 講演Ⅰ　「笑って、元気に、生き生きと」　講師：福岡篤彦 （吉野町国民健康保険吉野病院　副院長/奈良県立医科大学　臨床教授） 講演Ⅱ　「笑いはこころとからだのリラクゼーション」、講師：池田由紀 （名古屋市立大学　看護学部・大学院看護学研究科　准教授） 3. 看護研究交流集会 日時：2015 年 10 月 24 日（土）　参加者数：45 名 『私はこうやって研究を進めました』 Ⅰ部　10:10～11：40　看護研究体験談 講演①　「看護研究計画書ラクラク作成のためのコツ！」 大阪医科大学看護学部　教授　佐々木綾子 講演②　「質的研究のここがわかりにくい！　データのまとめ方のコツ」 大阪医科大学看護学部　講師　瓜崎貴雄 講演③　「臨床ナースの看護研究体験から学ぶコツ」 大阪医科大学附属病院　看護師　木谷優希 Ⅱ部　11:45～12:15　交流会 4. 国際交流セミナー 2015 年 7 月 7 日に TMU 派遣学生 5 名と看護学部学生の交流を行った。 5. 中山国際センター主催国際交流シンポジウム 2015 年 7 月 31 日に TMU 派遣学生 5 名が発表した。 6. 看護実践研究センター活動報告・研究活動報告会の開催 2016 年 3 月 5 日に参加者 36 名（うち教員以外 20 名）の参加があった。 9：45～10：45　講演

	「やりがい感は看護師を疲弊から守れるか～国際比較的な視座から～」 京都大学大学院　こころの未来研究センター教授　カール・ベッカー先生 10:45～12：00　学部共同研究及び研究活動報告 示説 16 題の発表があった。 7. TMU への学生派遣関連 看護学部 3 年生 1 名を選抜し、2016 年 3 月 7～11 日派遣した。 8. 次年度 TMU からの学生受け入れについて、中山国際医学医療交流センターと調整を行った。 9. 教員の発表済ポスターの常設掲示を行った。計 6 題のポスターを掲示した。
評価	1. 効果が上がっている事項 年間予定に沿い、活発に活動した。看護研究セミナー、市民看護講座、看護実践研究センター活動報告・研究活動報告の参加者からは良好な評価が得られた。 2. 改善すべき事項 1）市民看護講座：開催場所を医学部施設と間違う市民がみられた。ポスターに看護学部講堂での開催であることをわかりやすく、明確に記載する必要がある。 2）看護研究セミナー：1 回に集約しニーズのあることが明らかとなった。参加型や指導者用の内容検討が課題である。
将来に向けた発展方策・課題	1. 地域の他施設との連携は、その目的・レベルなどに違いがあるので、実現に困難が伴うが、今後も継続し連携を推進する。地域連携としては引き続き市民への公開講座など高槻市との連携は深めていく必要がある。 2. 卒業生のキャリアアップや研究支援にも取り組んでいく必要がある。同窓会が設立されたため、会との情報交換、研究支援を行っていく。 3. 附属病院との連携強化で研究支援を図っていく。 4. 教員の発表済ポスターの常設掲示など、研究成果の発信の場を設け、研究活動をさらに活性化する。 5. 看護研究セミナーの形式を見直し、開催方式やテーマなど、大学院進学へのアプローチとなるような形にしていくなど新たな方式を展開する。 6. GP を含む助成金公募：研究支援センター設立の動きに合わせ、情報収集・関係機関との連携など準備を行い、研究拠点としての役割を充実させていく。 7. 平成 28 年度からは大学院の国際交流活動支援についても本研究センターで担うこととなった。学部、大学院の国際交流活動を充実させていく。

センター名	教育センター
目的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画、教育環境整備、医看融合教育、授業評価、FD（Faculty Development）等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする。
構成員	泊祐子（センター長)、荒木孝治、鈴木久美、土手友太郎、草野恵美子、畑中あかね、小林道太郎、有友彰一（学務部）
活動計画	1．カリキュラム評価と改善案の作成 2．新規の授業評価及び実習評価の実施と見直し 3．医看融合教育の実施と充実への検討 4．成績評価及び進級判定の再検討 5．セルフトレーニングコーナーの活用による自学自習の促進プログラムの企画・運営 6．教育環境整備（演習室の使用、PC 備品機器及びセルトレコーナー）の評価と改善 7．教員及び院生の教育実践力を高める FD の計画と実施 8．新任教員への看護学部に関するオリエンテーションの計画と実施
活動概要	1．センター会議の開催 全 17 回（4/8・15、5/27、6/17、7/22、8/31、9/2・16、10/7・30、11/24、12/16、1/6、2/3・24、3/9・17） 1）卒業演習の領域決定方法 学生主体に変更したことに伴いその振り返りを行うために、また、卒業演習倫理審査会及び卒業演習報告会の今後のあり方について検討するために、学生対象にアンケート調査を実施した。 2）保健師・助産師国家試験受験資格取得者の選択 2．カリキュラム評価と改善案の作成 1）現行カリキュラムの評価のために必要な情報の収集・整理、2）現行カリキュラムに関わる課題の抽出、3）改善方法の検討とカリキュラム改正案の作成、を行った。教育センターは同 WG の事務局としての機能を果たすとともに、検討用下案の作成や WG 議事を受けての詳細検討などを行った。カリキュラム評価等 WG は今年度 10 回の会議（第 6 回～第 15 回）を行い、2 月にカリキュラム改正案について合意して活動を終了した。改正案は教授会に提出された。 3．新規の授業評価及び実習評価の実施と評価 本年度より、看護学部実習も授業評価の対象として、新規に実習評価表を作成し、実施した。授業改善の参考にすべての科目の結果を授業者に開示した。 4．医看融合教育の実施と充実への検討 医学部との合同会議は、4/27、7/4、1/7、2/1、3/8 の５回にわたって行われた。委員の構成は医学部 5 名、看護学部 4 名、学務部 4 名であった。 本会議では、本年度開設した科目「医療人マインド」運営、医看融合教育ゼミの企画運営、医看融合カンファレンスの今後のあり方について検討した。 「医療人マインド」は現場の医療で求められる職種の専門を生かしたチーム医

	療に関する共通の思考や認識基礎となる事柄を学ぶことを目的として、両学部の1年生を対象とした合同授業である。 医看融合ゼミは医学部6年生と看護学部4年生を対象に実施している。医療安全や倫理的判断等に関して討議できるような事例を作成し、医師、看護師の協働のあり方について考えられるように工夫した。 5. 成績評価及び進級判定の再検討 GPAの導入に関して、学生代表を招集し、学長から直接説明を行い、次年度の試行、29年度の本格実施について周知徹底を図った。 6. セルフトレーニングコーナーの活用による自学自習の促進プログラムの企画・運営 昨年度から設置を検討し、セルフトレーニングコーナーを4月から使用できるようにした。利用の促進、オリエンテーションの実施、実習前の学生対象「セルトレ夏企画」を実施し、年間の延べ利用者は300人を超えた。 7. 教育環境整備（演習室の使用、PC備品機器及びセルトレコーナー）の評価と改善 私立学校施設整備費補助金により、1)看護学部棟2階の情報処理室内PC5台に文献検索用ネットワーク（LAN×5本）と3階演習室全室にネットワーク（光ケーブル）を敷設し、医学部新講義実習棟に導入した臨床テキストブックを看護学部でも利用可能とした。さらに演習室5室に電子黒板(BIGPAD)を5台購入し、レーザープリンタも併設した。4階実習室出入口2ヵ所に入室システム（LAN×2本）を設置した。双方向授業などの目的にアンサーパッド(クリッカーナノ)100台を購入した。また学部予算により2階の情報処理室の最前列5台のPCに導入したSPSSにオプションを追加し、多重ロジステック回帰分析等より多くの分析が可能となった。さらに3階演習室用にノート型PCを8台購入した。 8. 教員及び院生の教育実践力を高めるFDの計画と実施 1) 新潟大学歯学部の小野和宏先生、「Active learning の実践と評価 ～特にルーブリックを用いた評価の実際について」 2) 京都大学高等教育研究開発推進センター　溝上慎一先生、「成績評価を含めた科目の単位認定及び 4 年間の学習成果の評価等に関する教育評価のあり方について」 3) カリキュラム改正に向けての意見交換をテーマに教員によりグループディスカッションを行った。 9. 新任教員への看護学部に関するオリエンテーションの計画と実施 本年度より、教員がスムーズに教育に入れるように教員によるオリエンテーションを企画実施した。
評価	1. 効果が上がっている事項 卒業演習の領域決定方法については「適切」62.2%であり、学生が主体的に領域を決めていくことに半数以上が賛同する方法で実施できた。 卒業研究倫理審査会については、時期は「適当」が 57.7%、どちらともいえないが34.6%、不適切は7.7%であり、審査後の研究実施スケジュールを考慮す

	ると概ね適切な時期に実施できたと考えられる。さらに、審査会における助言については 42.3%が役に立ったと回答しており、教育的視点からの審査が実施されていたと考えられる。 卒業演習報告会では、他領域の学生の発表を聞く機会が「かなりあった」「まあまああった」者は合わせて 46.8%であり、時間の制限がありながらも約半数は他領域の発表も聞く機会を積極的に持っていた。 カリキュラムに関して、各領域からのメンバーが集まる WG で議論し検討したことで、各領域の協力を得てその意見を反映した評価と改正案作成ができた。 授業評価について、結果は多角形のグラフ化や円グラフにより可視化され、全般的状況がわかりやすくなった。さらに全科目につき１枚ずつ、学年順と科目別に 1 冊にファイリングしていたため、一覧が容易になった。 医看融合教育について、グループワーク、発表会の運営など、医学部生と看護学部生が協働して、能動的に進めることができていた。一方で、専門職者連携教育（Interprofessional Education）の先発校では、その教育の実践を繰り返す中でプログラムの恣意性が少なくなり、4 年間にわたる段階的で総合的な教育プログラムを作成していた。本学では本年度から１年生の医療人マインドが始まった。一方で 2 年生では何をするか、3 年生はどうするか、4 年生ではどうしていくかといった体系的なプランについてはその是非の議論も含めて今後の課題となる。 教育環境整備に関しては、学部で文献検索ができるようになった。情報処理室で医学部でも使用している臨床テキストブックを参照できるようになった。3 階演習室の閉室時刻を 20 時から 22 時に延長したため、自学自習時間が増した。4 階実習室の入室システムにより、学生が自由にセルフトレーニングコーナーを使用できるようになった。3 階演習室のノート型 PC は、医看融合ゼミやグループ学習などにおいて資料作成に活用されるようになった。 FD に関しては、2 回の講演で得られた教育評価の知見に基づき、次年度のカリキュラム改正に向けて発展的な議論が展開できた。教育理論に基づきながら、本学の特色を踏まえ、実際の教育を現場でいかに運用していくかが十分検討されるべきである。 平成 26 年度からシラバスのペーパーレス化を図ったが、学生へのアンケートではシラバスを見ていないことや、教員が再度授業計画を配布していることもわかったため、次年度に改善の必要である。
将来に向けた発展方策・課題	卒業演習の領域決定方法については、人数制限と希望者数の偏りがある以上、どのような方法でも希望通りとならないことが発生するが、各方法のメリット・デメリットについて今後も継続して精査していく。 卒業演習報告会については、今年度の実施状況や学生アンケートの結果を踏まえ、より他領域の発表を聞く機会が増えるよう開催方法を変更する予定である。この先カリキュラム改正を実施して学年が一巡した後には、再び評価と見直しを行うことが必要である。全体としてより整合的なカリキュラム運用を行うとともに、国際交流や異文化に関する科目、その他基礎科目等のあり方についても引き

	続き検討していかなくてはならない。 授業評価表の回収率を高める方策を検討する。学生に対する評価表の閲覧への動機づけの機会（総代に学生全員への回覧依頼、チューター学生合同面談時に回覧など）を設ける。 PC 情報端末の活用と　ニーズに応じた PC 及びアプリケーションのバージョンアップを図るなど継続的な管理ができる体制を構築する。教員及び学生が BICPAD を活用して、グループ学習や集団指導などを充実させる。学生に 4 階実習室（セルフトレーニングコーナー）での自学自習を一層促す方策を立てる。アンサーパッドを活用した双方向授業、オープンキャンパス及び看護市民講座などの企画と運営を行う。 本学における Grade Point Average(GPA)の試験導入に向け、GPA による評価や判定等への運用に関する FD が必要である。

センター名	学生生活支援センター
目的	本センターは、看護学部における円滑な学生生活の提供をめざし、学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学、大学生活への悩み、経済的事由に起因する悩みなど）に組織的に対応し、学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う。
構成員	吉田久美子、小林貴子、真継和子、瓜﨑貴雄、西薗貞子、原明子、葉山善史、川上将弘
活動計画	2015 年度の目標 以下 7 点を活動目標とし、それぞれワーキンググループが中心となり活動した。 1．チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境づくり 2．公共性のある奨学金の開示の促進 3．意見箱の運用の活性化 4．教員・学生懇談会の活性化 5．学生が自ら話し合い学生生活の問題を解決していくことの支援 6．保健管理室との連携の充実 7．学生生活支援方策に関する医学部と看護学部の情報共有の活性化
活動概要	1．各月の活動概要 月 1 回の定例会議に加え随時臨時会議を開催し、必要事項の確認と検討、意思決定を行った。各回の会議については議事録を作成、保存している。また、医学部及び看護学部両センター長による連絡会議を月 1 回定例に開催し、学生支援上の課題を共有し、大学としての方針に則った対応を行っている。 以下、各月の主な活動である。 4 月：センター委員の役割分担、新年度チューターグループへの移行 5 月：奨学金応募者選考面談審査、保健管理室から学生への伝達方法の検討 6 月：学生ホール等の学習環境の整備の検討、看護学部給付奨学金の選考審査 7 月：休養室の運営方法の見直し 9・10 月：奨学金追加・臨時採用選考、医・看合同新入生学外合宿の検討 11 月：講義室の私物について 12 月：学生・教員懇談会の検討と実施、「学生生活の手引き」の検討 学友会の会則（案）の検討、障害を持った学生へのこれからの対応 1 月：「学生生活の手引き」の再検討 2 月：学生生活実態調査（2 年生から 4 年生）次年度チューター制度の検討 3 月：学生生活実態調査の報告、「学生生活の手引き」の再検討 2．担当ごとの活動内容 1）奨学金関連 奨学金を希望する学生に対して、センター教員による面接を行い、奨学金の内容や返済方法等について面接指導を行った。「在学採用」については応募書類、センター教員による面接での選考を行った。 2015 年度日本学生支援機構奨学金の新規採用数において、家族所得が一定水準以下の方が対象になる第一種（無利子）は、1 年生 21 名、2 年生 1 名であった。

家族所得にかかわらず申請可能だが、各校ごとの推薦可能数がある第二種（有利子）は、1 年生 17 名であった。看護学部独自の奨学金においては、大阪医科大学看護学部入学時特待生度として、１年生の成績優秀者上位 4 名に給付奨学金があり、2 年生から 4 年生の成績優秀者上位 4 名に看護学部奨学金給付規程によって給付奨学金があった。大阪医科大学看護学部特別奨学金として、専願入学者（本院入職希望者）に貸与奨学金があり、平成 25・26 年度入学生 10 名、平成 27 年度入学生 5 名であった。大阪医科大学看護奨学金は、大阪医科大学附属病院によるもので、3-4 年次に申請することにより、貸与される。

その他の奨学金として、本年度受給実績の奨学金において、小野奨学会から、1 年生 1 名、2 年生 3 名、3 年生 4 名、4 年生 3 名で、その内、3 年生 1 名は、成績優秀者として表彰状の授与を受けた。奥村奨学会からは、1 年生 1 名、3 年生 2 名であった。

2）チューター制度の実施

チューターグループの編成:チューター教員の組み合わせは、下記の通りである。1 年生は学籍番号順で振り分け、4 年生は例年通り卒業演習担当教員とした。

表 1.　2015 年度チューターグループ（1～3 年生担当）

No	担当教員	No	担当教員	No	担当教員
1	道重、畑中	6	元村、西頭	11	佐々木、小林（道）
2	田中、竹	7	赤澤、上山	12	鈴木、川北
3	泊、炭本	8	小林（貴）、肥後	13	竹村、横山、原
4	荒木、楢原	9	瀧井、西薗	14	真継、瓜﨑
5	土手、松尾	10	吉田、曽我	15	草野、カルデナス

教員 2 名（1 グループのみ 3 名）で 1～3 学年の学生 17～19 名を担当し、学生個々に対応できるようにした。面談実施状況は集団面談、個人面談を含め、1～2 年生は年間 1～2 回、3 年生は 1～3 回と学年が上になるごとに回数が増えていた。内容は、課外活動、成績や授業・実習内容が多く、3 年生では健康問題や就職進路について面談がなされていた。時間割の都合上、昨年度まで実施していた全体でのチューターグループ顔合わせ会は開催せず各グループに一任した。学年間の交流を目的としていたが、他の活動を通して交流していることもあり、実施しないことによって大きな問題はなかった。

3）学生意見箱の設置

月 1 回の開箱とした。12 件の投書があり、内容を検討したのち掲示板にて学生への回答を行った。内容は、学習環境や施設内設備に関するもの 5 件、キャリアアップに関するもの 2 件、事務等の対応について 3 件、カードリーダーの使用について 1 件であった。そのうち交換留学に関する案件については、看護実践研究センターに検討依頼した。

4）学生生活実態調査の実施

平成 28 年 2～3 月に 2～4 年生を対象に学生生活実態調査を実施し、162 人（回答率 66.1%）から回答があった。学生生活について、自宅が 8 割であり、通学時間は約 2 割のものが 1 時間半以上であった。食事摂取状況は、朝食・夕食を自宅

	または下宿で自炊が約 8 割であり、朝食を食べない学生は、1 割にとどまった。昼食は弁当持参が 6 割、コンビニの利用が 3 割であった。アルバイトを 8 割弱の学生がやっていた。不安、悩みがあるとしたものは 7 割あり、進路や就職に関することが 6 割であった。学内施設の利用については、利用度に差があった。大学生活の満足度は、満足しているが 8 割あった。調査結果の詳細は、「2015 年度学生生活調査結果」を参照。 5）学生と教員との懇談会の開催 12 月 21 日（月）にランチョン交流会として開催した。参加者は、教員 10 名（学部長、教育センター長、学生生活支援センター長･委員、有志教員）、学生 9 名(4 年生 2 名、3 年生 3 名、2 年生 2 名、1 年生 2 名)、学務部 1 名であった。学習環境の改善のアイデア、学生生活で困っていること、大学への要望等について意見交換がなされた。学生からは、外国語の学習や国際交流に対して学生全体の関心が高まるような働きかけをしてほしい、現在休校日となっている第二・四週の土曜日も開校してほしい、などの意見がみられた。これらについて、具体的に検討していくこととなった。 6）健康管理について 保健管理室とセンター教員が予防接種の未接種学生への情報を共有し、連携して関わるようにすることで摂取状況の確認がスムーズにできた。休養室の年間利用者数は 10 名であった。休養室整備として、休養室に常設している車椅子を空気が抜けないタイプに変更した。また、休養室内に緊急時の呼び出しボタンを設置した。誤作動を除いて、緊急時の呼び出しボタンは使用されなかった。来年度、休養室のフローリング化のための計画立案及び予算申請を行った。 7）学生自治支援について 学生が学生生活の様々な課題に主体的に取り組むことができるように、学生の相談の窓口となって対応した。 ・各学年の総代・副総代の選出は、学生間で決定できるように促しを行った。 ・各学年の総代・副総代を数回参集し、学年の枠を越えて総代・副総代が関係を築けるような場を 1 回／月、設定した。前期は担当教員が日時や場所を決めて一堂に会する機会を設けた。後期は、担当教員は退いたが、学生が主体となって継続して 1 回／月程度、このような場を設けることができていた。 ・講義室内に私物が散見されることについて、担当教員が 3 ヵ月にわたり、私物の放置の状況を記録し、毎月の総代・副総代会においてその結果をフィードバックした。そして、総代・副総代から学生全体に注意喚起がなされるように調整した。 ・4 回生の謝恩会担当委員・卒業アルバム担当委員を数回参集し、学生の準備状況を確認するとともに、困りごとなどに対し一緒に検討した。また、このような最終学年次に必要な事柄の準備等の内容の継承ができるように、4 回生が 1～3 回生に協力を募れるように調整を行った。 8）学生の手引き、学生の留意事項・施設利用等にかかる冊子の見直しと作成 ・看護学部では、医学部と共通の「手引き」に入らない内容をまとめた独自の冊

	子「学生生活の留意事項、施設利用等について」を作成しているが、学生が見やすいように A4 版に改訂した。また、今年度は、学生が利用しやすい内容の検討を行い「学生生活ガイド」（案）を作成した。4 月に新入生オリエンテーションならびに在学生オリエンテーションを行い、各学年の学生に対して、学生生活を送る上での留意事項や施設運用ルールの変更等の必要事項を、冊子を用いて説明した。 9）医学部、看護学部合同新入生学外合宿 ラフォーレ琵琶湖にて、4 月 6 日から 7 日の 1 泊 2 日で行った。看護学部は、学生 89 名、教員 10 名が参加した。将来どんな医療職になるか、そのためにどのような学生生活を過ごせばよいかをテーマにグループ討議や救急蘇生体験を実施した。その後のアンケートでは、82 名の学生から回答（回答率 92.1%）があった。満足している学生は、80 名（98.6%）であり、合宿の継続を 81 名（98.8%）が望んでいた。友だちが増えた、合同で討議することで、医学と看護学の両方の視点から考えることができた、救急蘇生体験を通じて医療人としての自覚がわいた等の意見があった。
評価	1．効果が上がっている事項 1）奨学金関連では、公共性のある日本学生支援機構ならびに各種財団、その他、各地の病院等施設からの奨学生募集の情報開示が促進されている。また、面接を行うことで奨学金の内容について学生に理解を促している。 2）各学年の総代・副総代を参集し、学年の枠を超えて関係が築ける場を月 1 回定例化したことで、学生が学生生活の様々な課題に主体的に取り組む基盤ができた。情報交換が促進され学生生活上の課題共有と解決に向けた活動につながった。 3）保健管理室とのタイムリーな情報共有により、早期に関係委員会や学生に関わることができるようになった。休養室の環境を見直し整備の予算化を行ったことから、来年度は、休養室の整備に取りかかることができる。 4）医学部・看護学部の連絡会議の定例化によって、両学部の学生生活支援に関する情報共有と新入生合同学外合宿規定（案）の検討や学友会会則（案）の検討まで行うことができ、大学の学生生活支援の体制化がはかられている。 5）障害学生修学支援のための研修会参加費用を予算化し、来年度の研修参加を促した。 2．改善すべき事項 1）学生生活実態調査を行った結果、不安・悩みがあるとしたものが 7 割、相談相手が誰もいないとしたものが 1 割存在する中で、保健管理室やチューターの利用がわからない学生も多くいたことから、学内施設の説明と利用促進を図る必要がある。また、自習室の増設や IT 環境など学習環境の整備の要望も多くあげられていたことから、教育センターと連携し、整備を図る。 2）総代・副総代を中心に縦断的な学年間の交流を図り、さらに学生との懇談会等を活用した意見交換を積極的に行い、学生が主体的に快適な学生生活を送ることができる支援体制づくりの推進が重要な課題となる。

将来に向けた発展方策・課題	平成 28 年 4 月 1 日より、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が施行される。障害を持つ学生への修学支援に関しては、ソフト面及びハード面の支援が求められ大学全体の取り組みが必要となることから、大学としての早急な体制づくりが重要である。学生がより快適な学生生活を送るために、主体的な学生生活における課題について取り組むことができることを主眼におき、教員との信頼関係の強化を図りながら学生生活の民主化（学友会の明確化）を図る。

3.委員会

委員会名	予算委員会
目的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする。
構成員	林優子（学部長）、泊祐子（教育センター長）、荒木孝治（実習委員会委員長） 田中克子（教授）、有友彰一（学務部）
活動計画	1. 各部署等より提出された予算案を見直し、平成 28 年度看護学部予算案を作成し、教授会で承認を得る。 1）学生の教育、学生の実習に係る備品等 2）各センター及び各委員会に係る活動費 3）教員の研修等に係る活動費 4）教員の交通費 5）実習補助員に係る諸経費 6）看護学事務課に係る諸経費 7）その他、学部長が必要と認めたもの 2. ヒアリングに出席する。
活動概要	平成 28 年度予算案を作成するために、看護学部消耗品等できるだけ削減するように努め、必要とする新規備品購入ができるように予算案を作成した。 看護学部として以下の新規購入を要望した。 1）研究棟印刷機（ORPHS-EX9050,DC-V-C7776）2 台 2）研究棟裁断機（MS シュレッダーMSX-F65）1 台 3）分娩介助モデル用外陰部Ⅱ型初産婦仕様 LM-101P 4）M177 術後ケアスーツ 5）経管栄養法モデル矢状断 W43020 6）男性導入トレーナー160151 7）学び創出システム MANABOT-S
評価	1. 効果が上がっている事項 本年度より、予算案作成にあたり、予算委員会で審議し、適正な予算要望をするようにシステム化した。そのため、大幅な削減ができ、さらに必要な新規備品購入要望が可能になった。 2. 改善すべき事項 予算委員会のシステム化を定着させる。
将来に向けた発展方策・課題	平成 28 年度予算の執行状況を確認しながら、看護学部にとって適正な予算要望を検討することが重要である。

委員会名	実習委員会
目的	看護学実習に関わる事項（年間計画の立案、実習要項の作成、実習連絡協議会の運営、実習中のインシデント等に関する検討など）の調整を目的とする。
構成員	荒木孝治（委員長)、小林貴子、赤澤千春、竹村淳子、真継和子、草野恵美子、西頭知子、西薗貞子、川北敬美、炭本祐佳
活動計画	1．実習連絡協議会の企画、運営、今後の実習連絡会議のあり方の検討と調整 2．看護学実習要綱（共通事項)、各領域実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正と取りまとめ 3．領域別実習の学生のグループ編成、実習オリエンテーションの企画運営、本年度の実習全体に関わる調整 4．実習中のインシデント・アクシデントなどの分析と今後の対策の検討
活動概要	1．7 月 16 日に第 1 回実習連絡協議会、3 月 17 日に第 1 回実習連絡協議会を開催した。7 月は看護部から 26 名、外部施設から 10 名の参加があった。各領域より本年度の実習概要に関する説明等を行った。3 月は看護部から 24 名、外部施設から 28 名の参加があった。本年度の実習をしてその報告等を行った。実習科目の学年進行にそって報告を行い、全体像が見えるように運営した。 2．看護学実習要綱をはじめ各実習の要項を作成した。 3．各実習の運営に関する調整を行った。 4．実習中のインシデント等に関する取り組みを充実させるため、ワーキンググループ(WG)の結成、WG による提出された報告書の内容の点検と検討課題の抽出、実習委員会にてのメンバー間での議論、新報告書の作成などを行った。
評価	1．効果が上がっている事項 1)実習運営の調整の議論に加え実習学生に関する情報交換を定期的に行った。 2)実習のインシデント等に関する分析が深まり問題点が共有しやすくなった。 2．改善すべき事項 個人情報の取扱いに関する学生の意識を徹底する方策についてさらに検討していく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	1．学生の感染徴候に対する対応のマニュアルの充実 2．学生の精神的健康が悪化したときの対応や支援体制の検討

委員会名	ウェブサイト委員会
目的	大阪医科大学看護学部のウェブサイトを円滑に管理運用することを目的とする。
構成員	佐々木綾子（委員長)、横山浩誉、肥後雅子、葉山善史（学務部、2015 年 10 月まで)、川上将弘（学務部、2015 年 11 月より）
活動計画	1. 看護学部ウェブサイトの開設及び廃止の決定 2. 看護学部ウェブサイトの公開停止及び公開停止後の公開再開の決定 3. 看護学部ウェブサイトの更新内容の審査と承認 4. 看護学部ウェブサイトの作成に関する実務を行う業者の決定及びその監督 5. 看護学部ウェブサイトへのリンクの承認及びその取り消し 6. 利用者等から寄せられる要望や意見の検討と反映 7. 看護学部ウェブサイト運用に係る管理及び予算の確保
活動概要	1. 委員会の開催 定例会議を 10 回、メール会議を 3 回開催した。 2. 研究領域更新 3. 教育内容（教員一覧)・教育内容（教員からのメッセージ）更新 4. 看護実践研究センターからの情報適宜更新 5. 看護学部ホームページ更新（特に情報公開に関する内容である、国家試験結果、就職先情報を新たに掲載) 6. 看護学部ホームページデザイン及び各研究領域記載内容の見直し 7. 学術情報（研究雑誌）更新 8. 年報バナーの新規設置 9. 大阪医科大学→市民公開講座バナーに「看護学部市民看護講座開催案内」のリンクを設置 10. 情報公開に伴い在籍者数、入学志願者数、入学者数について掲載
評価	1. 効果が上がっている事項 年間予定に沿って活動した。特に看護学部ホームページデザイン及び各研究領域記載内容の全面更新を行ったことにより、看護学部の情報発信力強化が期待される。 2. 改善すべき事項 引き続き必要な情報を必要な人へ、タイムリーに提供するホームページ運営、管理を行っていく。
将来に向けた発展方策・課題	1. 看護学部ホームページデザインをさらに充実させる。 2. 学生生活に関することを充実させる。 3. 各教員と領域のホームページをさらに充実させる。 4. 就職・国試情報を充実させる。

委員会名	看護研究雑誌編集委員会
目的	おもに大阪医科大学看護学部の教員がその研究業績を発表する雑誌である「大阪医科大学看護研究雑誌」の論文受稿・査読、編集、出版等に関わる業務を行う。
構成員	田中克子（委員長)、元村直靖、道重文子、小林道太郎
活動計画	1．2015 年度の活動計画 1)「大阪医科大学看護研究雑誌」第 6 巻の発行 2）投稿規定の変更及び執筆要領の変更
活動概要	1．委員会：計 6 回開催し、下記活動についての審議・調整等を行った。 1）投稿規定及び執筆要領の変更：原稿の種類の変更、短報を削除、原稿制限枚数を原稿の種類にかかわらず 10 ページ以内とした。 2)「大阪医科大学看護研究雑誌」第 6 巻の発行：原著１編、研究報告１編、実践報告 1 編、資料 11 編の計 14 編の論文を掲載した。
評価	1．効果が上がっている事項 今年度は論文の内容や種類に対応した投稿規定や執筆要領の変更を行った。投稿者は、本学教員のみならず大学院生など広範囲となった。今年度は、題目登録と論文投稿の期限を投稿規定に沿ってほぼ順守することができた。 2．改善すべき事項 投稿論文の内容も様々であるので、査読のプロセスもわかりやすく詳細にすることが必要であると考える。査読のガイドラインが構築され公開されることによって投稿する論文の質の向上や投稿の動機づけにつながると考える。査読者の確保も引き続き検討していく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	本学研究科の学生の投稿者も加わり、投稿論文も多くなり、論文の内容も様々であるので、学内に限らず査読者の確保も検討する必要がある。それとともに査読の充実に関しては、査読の方針も明記することと、ピアレビュー依頼前にエディトリアルレビューに関して検討する必要性もある。 また、査読者の質の担保のために、学内で継続的に査読者の FD も検討する必要もある。

委員会名	物品管理委員会
目的	大阪医科大学看護学部の授業運営に必要となる物品の管理を行う。
構成員	田中克子（委員長)、竹明美、原明子、齋藤美彩（学務部）
活動計画	1．授業運営にかかる教育教材が有効に効果的に活用できるよう物品管理を行う。各領域が管理台帳に基づき物品管理を行う。 2．モデル人形、ベッド、車椅子の点検を行う。 3．実習室で使用する共通経費を概算し、限られた学校経費を有効に活用するための基礎資料とする。 4．安全に配慮した物品管理の方法の見直しを行う。
活動概要	1．5月から3月まで、計9回の委員会議を行った。 2．本学物流センターの定数化運用システム（SPD）を活用し、共通物品の定数化運用から、1年間の予算として85,000円を導き出した。また、予算化に当たり、修理費改修費などは大学の物品管理費に包括した。 3．今まで未着手であったモデル人形、ベッド、車椅子の点検を行い、有効に物品管理ができるようにした。 4．災害などの安全対策として、更衣に使用するロッカーを実習室2の壁面に移動した。安全対策に関しては、本学の大学教育研究環境小委員会の指導の下に改善していく予定である。 5．物品の破損なく管理するため、車椅子を移動し準備室2の整備を行った。 6．共通消耗品の定数見直しを行った。 7．実習室1、2の学生の実習室自己学習の利用状況は延1,331人で、1、2学年であった。
評価	1.効果が上がっている事項 1）昨年度のラベル付物品による定数化運用によって在庫確認が確実に行え、デッドストックは減量し、適正に予算化ができた。 2）ベッド、モデル類等の点検を行うことによって教育教材を活用した授業が効率良く運営できるようになった。 2.改善すべき事項 1）共通に使用する物品であるベッド、ストレッチャー、ワゴンなどに関しては委員会で管理する方向で検討する。 2）安全面から物品の移動や収納方法の改修も必要になる可能性がある。
将来に向けた発展方策・課題	1．教育の内容を踏まえて、物品の保守点検、物品の購入に関して適正に行われるようにさらに運用方法の見直しが必要と考える。 2．学生の実習室の自己学習の使用状況に応じた実習室の整備を行っていきたいと考える。

委員会名	就職支援委員会
目的	大阪医科大学看護学部の学生の就職や進路の支援を行う。
構成員	土手友太郎（委員長)、道重文子、川北敬美、横山浩誉、葉山善史（学務部 2015 年 10 月まで)、川上将弘（学務部 2015 年 11 月より）
活動計画	1．学生にキャリアサポートルームの利用を促進する。 2．多様な事情を持つ学生への個別対応を委員が直接対応し、適切な指導を行う。 3．就職支援のためのガイダンス・就職啓発セミナーの企画・運営を行う。 4．卒業生と在校生の交流の機会を設け、学生に就活に関する情報を収集させる。 5．来校人事担当者との対応等の就職関連情報を教員・学生へ公開する(HP 作成を含む)。
活動概要	1．委員が個別相談日を設定、面談し、情報が必要な場合は詳しい教員へ仲介した。 2．全学年対象のガイダンスを年 2 回実施した。まず 6 月に㈱マイナビによる進路の選択、次に 2016 年 2 月 13 日に第二期卒業生の看護師、保健師、助産師による講演及び質疑応答を開催した。さらに同日の午後には特に 3 年生を対象とした㈱マイナビによる履歴書及び面接対策の講演を実施した。 3．前述の卒業生及びそれ以外の卒業生 17 名と合同昼食会を開催し、在校生への進路情報の交換の場とした。また費用は PA 会費から支出した。同日に看護学部の第二回同窓会が開催された（会員：卒業生、準会員：在校生、顧問：委員長・学部長)。 4．就職情報の定期便として来校施設一覧・パンフレット等の内容を学生、教員両方に発信する。来校施設の応接録は委員が記載し、閲覧用に同室に保管した。 5．看護学部 HP にバナーを作成し、卒業生の就職状況（主な就職先）を掲載した。
評価	1．効果が上がっている事項 1）ガイダンス受講を授業の一環としたことで、ほぼ全員出席となった。 2)卒業生の講演内容は、身近な体験談がとても役立つ情報とし受け入れられた。 3）進路選択、面接作法、履歴書の書き方の基本的事項をおおよそ周知できた。 4)在校生のガイダンスの出席者の増加に伴い合同昼食会への参加者も増え、卒業生との交流がさらに盛り上がった。また、個別面談では全体ガイダンスで指導しにくい内容をプライバシーに配慮し指導できた（就職・募集状況：学内外に発信した)。 2．改善すべき事項 1）全員が就職あるいは進路が決定となったが、第一志望施設が不採用となった学生が数名報告されている。不採用の原因として、不適切な履歴書の作成や誤った面接マナーに起因する可能性が考えられる。 2)キャリアサポートルーム利用者がほぼ横ばいであり、一層の活用が望まれる。
将来に向けた発展方策・課題	本来は平日が望ましいが、授業日程上、参加者数が制限されるため土曜日の実施となった。無理なく参加できる曜日、日時等の設定を今後検討すべきである。原則、自主的な参加が望ましいが、参加への動機づけが当面必要と考えられる。さらに年に 2 回程度しか開催できないため、全体ガイダンスや個別指導を一層充実させ、全員が第一志望の施設に採用されるように学生の意識を高める必要がある。

委員会名	国家試験対策委員会
目的	大阪医科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す。
構成員	瀧井道明（委員長）、草野恵美子、西薗貞子、竹明美、曽我浩美
活動計画	1．4 年生全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2．平成 27 年度国家試験対策の模試や対策講座の実施 3．成績不振者対策、チューターによる学習指導の強化 4．平成 28 年度国家試験対策の企画及び予算案の作成
活動概要	1．役割分担 1）全体総括、教授会審議・学科会議協議・報告関係、予算関連：瀧井委員長 2）看護師対策講座、東京アカデミー窓口：西薗委員 3）看護師・保健師模試：竹委員、曽我委員　保健師対策講座：草野委員 4）助産師対策講座・模試、キャリアサポートルーム整理：竹委員 2．委員会の開催（計 11 回）と主要議題 “国家試験対策のスケジュールと運用”については毎回の委員会の議題として、確認と徹底を図った。模試の結果が返却される度に成績の分析、成績不振者の選定をした。看護師模試での成績下位の約 20 名は、対策講座受講時に前方に座らせて学習意欲を刺激させるように図り、チューターに学習指導を強化するよう依頼した。 3．模擬試験、対策講座などの年間実施状況 看護師対策としては主として東京アカデミーへ依頼し、模試 6 回、講座 41 回を実施した。また、保健師対策としては模試 3 回、講座 18 回、助産師対策としては模試 2 回、セミナー2 回を実施した。
評価	1．効果が上がっている事項 ①第 105 回看護師国家試験は受験者 85 名中合格者 85 名（100%）、②第 102 回保健師国家試験は受験者 49 名中合格者 46 名（93.9%）、③第 99 回助産師国家試験は受験者 6 名中合格者 6 名（100%）という合格状況であった。特に看護師国家試験は、2 年連続合格率 100%の快挙であった。 2．改善すべき事項 昨年度に続いて、学生が国試対策の模試や講座を欠席する際の連絡体制など事務的な事項の周知が不徹底であったので、今後学生に周知していく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	本年度の学生は昨年度に比べると、模試での最下層の学生数は若干多かったように思われる。合格率を維持していくには、最終回模試での最下層の学生の底上げと本試験直前でのメンタル面を含めた指導が重要である。国家試験対策委員以外の教員の先生方にも国家試験対策スケジュールを把握していただき、チューターとして担当の学生の指導に継続して熱心に取り組むことが望まれる。

委員会名	年報編集委員会
目的	看護学部年報編集に関わる事項の調整をする。
構成員	道重文子（委員長)、元村直靖、竹村淳子、楢原理恵（6 月まで)、佐野かおり（7 月から)、宮崎裕子（学務部）
活動計画	1. 平成 26 年度年報の集約、電子媒体での発行 2. 平成 26 年度年報の取りまとめ
活動概要	1. 委員会の開催 4 回開催 2. 2014 年（平成 26 年度）年報の発行 1）平成 27 年 7 月 31 日発刊 2）冊子は 20 部作成し関連部署に配布した。 3）看護学部教員への CD 配布を中止とし、HP で PDF を公開した。 3. 2015 年（平成 27 年度）年報作成について 1)原稿執筆要領の見直しを行い、特に研究業績の書き方については見本を呈示した。 2)2015 年度年報の原稿作成依頼をした。
評価	1.効果が上がっている事項 年報の PDF を HP に公開したことにより、本学の教育研究活動を伝えることができた。 2.改善すべき事項 冊子を希望する者もいるため､冊子作成部数及び配布先についての検討が必要である。
将来に向けた発展方策・課題	1. 2015 年度年報の発行 2. カリキュラム変更や研究活動の推進が行われているため、年報への記載内容の検討が必要である。

委員会名	広報委員会
目的	大阪医科大学看護学部の広報活動のビジョンを示しながら、大阪医科大学入試広報部、本学部各種委員会と連携を図り、本学部の受験者を募集する。
構成員	松尾淳子、カルデナス暁東、小林道太郎、畑中あかね、上山ゆりか、佐野かおり（7 月～）、楢原理恵（～6 月）
活動計画	1. オープンキャンパス企画・運営 2. 看護学部案内書の企画・作製 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施 4. 看護学部案内書サブツールの企画・作製 5. 学校訪問の調整・実施の計画
活動概要	1. 委員会の開催 定例会議 5 回、広報入試部との合同会議 2 回の計 7 回を開催した。 2. オープンキャンパス企画・運営 オープンキャンパス 3 回・入試相談会 1 回を企画運営した。今年度は学部生のプレゼンテーション（入学まで、学生生活について）をプログラムに取り入れた。 3. 看護学部案内書の企画・作製 実習、カリキュラムに関するページと、新たに特集として理想の看護師像を様々な職種から語ってもらう内容を企画した。 4. 進学ガイダンス出向の調整・実施 「看護医療系学校合同説明会」（東京アカデミー）2 名、「夢ナビ」大阪会場 4 名、名古屋会場 1 名、「府立三島高校内ガイダンス」1 名、「高校生のための大学フェア」大阪 1 名、京都 1 名、以上 10 名が出向し、ガイダンス及び講演を実施した。 5. 看護学部案内書サブツールの企画・作製 学生生活の紹介を主としたサブツールを作製した。 6. 学校訪問の調整・実施の計画 今年度は入試広報部の職員が進学校に絞って訪問し、教員は訪問しなかった。
評価	1. 効果が上がっている事項 看護学部広報委員会が設立して 3 年目となり、広報委員会の活動が学内で周知され、委員会メンバーを中心に広報が円滑に実施されるようになった。オープンキャンパスでは、学生が主体性を持って進行することで受験者数に反映することにつながっている。 2. 改善すべき事項 学外への看護学部の教育・研究の取り組みを周知し、受験者を募集する活動が不足していた。
将来に向けた発展方策・課題	カリキュラム改正に伴い、看護学の教育理念や国際化などに向けた新たな取り組みなどを周知し、学外への広報活動を行い、受験者獲得を目指す。

委員会名	卒業研究に関する倫理審査会
目的	看護学部の卒業研究に関する倫理審査会として設置された。人を対象とする研究において、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理上の指針を基に倫理審査を行うことを目的とする。
構成員	鈴木久美（委員長）、泊祐子、元村直靖、真継和子、瓜﨑貴雄、川北敬美、曽我浩美
活動計画	1. 卒業研究倫理審査の実施と評価 2. データの取り扱いに関する指針の作成及び周知 3. 卒業研究倫理審査に関する手順等の周知 4. 倫理審査の充実・改善
活動概要	1. 倫理審査の実施 1）2回（6月、7月）の卒研倫理審査の機会を設け申請書は合計18件提出された。 2）審査会には今年度も学生の出席を求めて、学生自らが倫理的配慮について学べる機会とした。また、修正の内容が明確になるように審査会のコメントを手渡し、確認をとった。 2. データの取り扱いに関する指針の作成及び周知 「卒業研究におけるデータの取り扱いに関する取り決め」を作成し、看護研究専門部会で審議・修正し、5月の学科会議で全教員に周知した。 3. 卒業研究倫理審査に関する手順等の周知 倫理審査に関する手順・フローチャートについては、教授会報告後、全教員に4月にメールにて周知した。なお、フローチャートは5月の学科会議でも説明した。 4. 倫理審査の充実・改善 申請書類の内容の確認が不十分なままに、審査会に提出されるケースがいくつか見受けられたため、申請書類提出時に記入するチェックリストの内容と、申請書・説明書の雛型の見直しを行うこととなった。
評価	1. 効果が上がっている事項 1）審査会前に会議をもち意見集約していたため、審査会の時間が短縮できた。 2）審査会への学生の同席は、卒業演習への責任性や倫理的配慮に対する意識の向上につながったと考えられる。 2. 改善すべき事項 本学倫理委員会から「卒業研究に関する倫理審査会」に対する位置づけやあり方について課題が提示されたため、教授会で審議した。その結果、本倫理審査会における役割は今年度で終了することとなった。
将来に向けた発展方策・課題	本審査会が次年度からなくなるため、卒業研究で人を対象とする研究をする際の取り決めを検討し、教授会で審議したのち「卒業演習における研究倫理に関する申し合わせ」を作成した。また、卒業演習要項にも人を対象とする研究をする際の取り決めを明記した。

4. 大学院運営委員会

委員会名	大学院運営委員会
目的	本委員会は、看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ、大学院生の教育、研究、学位審査、学生生活に関する事柄、また、入学試験等に関する協議を行い、必要事項を審議事項、報告事項として教授会に提議する。
構成員	泊祐子（委員長)、荒木孝治、佐々木綾子、田中克子、道重文子
活動計画	1. 学位論文審査基準の検討（主論文・副論文の投稿先の検討を含む） 2. 学位論文作成要領・執筆要領の作成 3. 時間割の改正（とくに前期課程・専門科目） 4. 学生生活支援の充実（図書増冊、ティーチングアシスタントの体制整備を含む） 5. 修士論文の審査体制の確立
活動概要	1. 博士論文に関連する掲載学会誌の検討と決定 2. 学位論文作成要領・執筆要領の作成と（平成 28 年度版）教育要項への掲載 3. 入学試験における合否基準の検討と案の策定 4. 学部教員が後期課程に入学するにあたっての申し合わせの策定 5. 大学院看護学研究科の 3 ポリシーの見直しと改正 6. 後期課程への学内からの進学者の入学金免除規程の策定 7. 修士論文・博士論文の計画発表会の実施 8. 論文審査（修士）のための口頭試問及び修士論文発表会の実施 9. 院生研究室の整備 10. 前期課程の専門科目の履修しやすい時間割の改正 11. 後期課程への学内からの進学者の入学金免除規程の策定 12. 平成 28 年度入学予定者の補習授業の実施 13. 研究用図書（和書及び洋書）の新規購入 14. 大学院授業評価アンケートの実施と交流会での院生へのフィードバック 15. ティーチングアシスタントの体制の整備 16. 教育要項の充実
評価	1. 効果が上がっている事項 1）スケジュールに基づいて学位論文の提出に至るプロセスと指導体制の確立 2）入学試験の合否基準の策定（今後も継続して協議される） 3）教育要項充実による教員・院生への情報・手順の周知 2. 改善すべき事項 1）学位論文の審査基準の明確化の審議時間の不足 2）教員の転出入による科目担当の決定の基準の明文化
将来に向けた発展方策・課題	1. 看護学部と看護学研究科の協力体制の強化 2. ホームページの充実を含む広報活動の活発化 3. 教育の質の担保のための FD 等の推進 4. 院生の研究促進のためのプロジェクトの検討

5. 看護学部教育活動

1)授業科目一覧

2015年度入学生（新１年生）用

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑ 19単位以上 ●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上（社会理解から2単位以上含まれていること） ↓
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								
		物理学		講義	1		○							
		くらしの中の倫理と法律		講義	1	○								
		大阪を学ぶ		講義	1		○							
		哲学		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2	○								
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
		医学概論		講義	1		○							
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	2	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○								
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		国際言語文化		講義	2	○								
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	―	◇								
基礎科目必修単位数					12	7	3	1	1	0	0	0	0	
専門基礎科目	人間理解	人間関係論		講義	1	●								↑ 30単位以上 ●必修科目27単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								
		感染と免疫		講義	1	●								
		からだと栄養		講義	2		●							
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルエグザミネーション		演習	1		●							
		からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断		講義	2			●						
		病気の治療		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	社会理解	医療人マインド		演習	1	●								
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		地域救命救急		講義	1					○				
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1					●				
		リスクマネージメント		講義	1					●				
	異文化理解	医療英語		演習	1					●				
		原著講読		演習	1							●		
		異文化看護入門		演習	1					○				↓
専門基礎科目必修単位数					27	5	8	8	2	3	0	1	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 78単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目6単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2			●						
		看護管理		講義	1								●	
		看護教育		講義	1							●		
	生活支援	老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年保健看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学実習		実習	2						●			
		母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
	療養支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	2						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	2						●			
		成人保健看護学実習		実習	1						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	地域支援	在宅看護学概論		講義	2			●						78単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目6単位以上 （看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること）↓
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					
		公衆衛生看護学活動方法	◎	演習	1					○				
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		実習	1							●		
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1							○		
		先端医療に伴う看護技術		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		緩和ケアと代替・補完療法		演習	1							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1								◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4								◇	
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8								◇	
	統合	家族看護学		講義	2					●				
		チーム医療論		講義	1							●		
		看護実践と理論の統合		演習	2						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		災害看護論		講義	1					○				
		広域統合看護学実習		実習	2								●	
		看護実践発展実習		実習	2							○		
専門科目必修単位数					72	2	8	16	9	8	19	4	6	
必修単位数合計					111	14	19	25	12	11	19	5	6	

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2014年度入学生（新２年生）用

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑ 19単位以上 ●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上（社会理解から2単位以上含まれていること）
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								
		物理学		講義	1		○							
		くらしの中の倫理と法律		講義	1	○								
		大阪を学ぶ		講義	1		○							
		哲学		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2			○	（1学年と受講）					
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
		医学概論		講義	2		○							
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	2	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2			○	（1学年と受講）					
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		国際言語文化		講義	2	○								↓
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	－	◇								
基礎科目必修単位数					12	7	3	1	1	0	0	0	0	
専門基礎科目	人間理解	人間関係論		講義	1	●								↑ 29単位以上 ●必修科目26単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								
		感染と免疫		講義	1	●								
		からだと栄養		講義	2		●							
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルエグザミネーション		演習	1		●							
		からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断		講義	2			●						
		病気の治療		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	社会理解	保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		地域救命救急		講義	1					○				
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1					●				
		リスクマネージメント		講義	1					●				
	異文化理解	医療英語		演習	1					●				
		原著講読		演習	1							●		↓
専門基礎科目必修単位数					26	4	8	8	2	3	0	1	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2			●						
		看護管理		講義	1								●	
		看護教育		講義	1							●		
	生活支援	老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年保健看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学実習		実習	2						●			
		母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
	療養支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	2						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	2						●			
		成人保健看護学実習		実習	1						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	地域支援	在宅看護学概論		講義	2			●						79単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上 （看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること） ↓
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					
		公衆衛生看護学活動方法	◎	演習	1					○				
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		実習	1							●		
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1							○		
		先端医療に伴う看護技術		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		緩和ケアと代替・補完療法		演習	1							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1								◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4								◇	
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8								◇	
	統合	家族看護学		講義	2					●				
		チーム医療論		講義	1							●		
		看護実践と理論の統合		演習	2						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		災害看護論		講義	1					○				
		異文化看護入門		演習	1					○				
		広域統合看護学実習		実習	2								●	
		看護実践発展実習		実習	2							○		
専門科目必修単位数					72	2	8	16	9	8	19	4	6	
必修単位数合計					110	13	19	25	12	11	19	5	6	

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2013年度入学生（新３年生）用

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								19単位以上
		物理学		講義	1		○							
		くらしの中の倫理と法律		講義	1	○								
		大阪を学ぶ		講義	1		○							●必修科目12単位
		哲学		講義	1		○							○選択科目7単位以上（社会理解から2単位以上含まれていること）
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2					○	（1学年と受講）			
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
		医学概論		講義	2		○							
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	2	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1							○		
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2			○						
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		国際言語文化		講義	2	○								↓
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	－	◇								
基礎科目必修単位数					12	7	3	1	1	0	0	0	0	
専門基礎科目	人間理解	人間関係論		講義	1	●								↑
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								
		感染と免疫		講義	1	●								30単位以上
		からだと栄養		講義	2		●							
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							●必修科目27単位
		フィジカルエグザミネーション		演習	1		●							○選択科目3単位以上
		からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断		講義	2			●						
		病気の治療		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	社会理解	保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		地域救命救急		講義	1					○				
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1					●				
		リスクマネージメント		講義	1					●				
	異文化理解	医療英語		演習	1					●				
		原著講読		演習	1							●		↓
専門基礎科目必修単位数					26	4	8	8	2	3	0	1	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2			●						
		看護管理		講義	1								●	
		看護教育		講義	1							●		
	生活支援	老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年保健看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学実習		実習	2						●			
		母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
	療養支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	2						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	2						●			
		成人保健看護学実習		実習	1						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	地域支援	在宅看護学概論		講義	2			●						79単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上 （看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること） ↓
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					
		公衆衛生看護学活動方法	◎	演習	1					○				
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		実習	1							●		
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1							○		
		先端医療に伴う看護技術		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		緩和ケアと代替・補完療法		演習	1							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1								◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4								◇	
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8								◇	
	統合	家族看護学		講義	2					●				
		チーム医療論		講義	1							●		
		看護実践と理論の統合		演習	2						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		災害看護論		講義	1					○				
		異文化看護入門		演習	1					○				
		広域統合看護学実習		実習	2								●	
		看護実践発展実習		実習	2							○		
専門科目必修単位数					72	2	8	16	9	8	19	4	6	
必修単位数合計					110	13	19	25	12	11	19	5	6	

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2012年度入学生（新４年生）用

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）			卒業要件単位数
						第1～3学年	第4学年		
						前期	前期	前期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●			↑ 19単位以上 ●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上（社会理解から2単位以上含まれていること）
		生物学		講義	2	○			
		化学		講義	2	○			
		物理学		講義	1	○			
		くらしの中の倫理と法律		講義	1	○			
		大阪を学ぶ		講義	1	○			
		哲学		講義	1	○			
		くらしと文学		講義	2	○			
		教育学		講義	2	○			
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○			
		体育Ⅱ	＊	演習	1	○			
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1	○			
		医学概論		講義	2	○			
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●			
		健康科学概論		講義	2	●			
		情報リテラシー		演習	1	●			
		データ処理演習	＊	演習	1		○		
		統計学		講義	2	●			
		日本国憲法	＊	講義	2	○			
		くらしと社会・環境		講義	2	○			
		くらしと経済		講義	2	○			
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○			
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●			
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1	●			
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1	●			
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1	●			
		国際言語文化		講義	2	○			↓
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	－	◇			
基礎科目必修単位数					12	12	0	0	
専門基礎科目	人間理解	人間関係論		講義	1	●			↑ 29単位以上 ●必修科目26単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●			
		感染と免疫		講義	1	●			
		からだと栄養		講義	2	●			
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2	●			
		こころの仕組みと働き		講義	1	●			
		フィジカルエグザミネーション		演習	1	●			
		からだとくすりの働き		講義	2	●			
		病気の成り立ち		講義	2	●			
		病気の診断		講義	2	●			
		病気の治療		講義	2	●			
		食生活論		講義	1	○			
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1		○		
		リプロダクションと看護	☆	演習	1	○			

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）			卒業要件 単位数
						第1～3学年	第4学年		
						前期・後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	社会理解	保健医療福祉概論		講義	2	●			
		公衆衛生学・疫学		講義	2	●			
		地域救命救急		講義	1	○			
		ヘルスプロモーション論		講義	1	○			
		医療倫理学		講義	1	●			
		リスクマネージメント		講義	1			●	
	異文化理解	医療英語		演習	1	●			
		原著講読		演習	1		●		
専門基礎科目必修単位数					26	24	1	1	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●			↑ 79単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3	●			
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1	●			
		看護アセスメント		演習	1	●			
		治療過程に伴う援助技術		演習	2	●			
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2	●			
		看護管理		講義	1			●	
		看護教育		講義	1		●		
	生活支援	老年看護学概論		講義	2	●			
		老年看護学援助論		演習	1	●			
		老年看護学援助方法		演習	1	●			
		老年保健看護学実習		実習	2	●			
		老年看護学実習		実習	2	●			
		母性看護学概論		講義	2	●			
		母性看護学援助論		演習	1	●			
		母性看護学援助方法		演習	1	●			
		母性看護学実習		実習	2	●			
	療養支援	成人看護学概論		講義	2	●			
		急性期成人看護学援助論		演習	1	●			
		急性期成人看護学援助方法		演習	1	●			
		急性期成人看護学実習		実習	2	●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1	●			
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1	●			
		慢性期成人看護学実習		実習	2	●			
		成人保健看護学実習		実習	1	●			
		小児看護学概論		講義	2	●			
		小児看護学援助論		演習	1	●			
		小児看護学援助方法		演習	1	●			
		小児看護学実習		実習	2	●			
		精神看護学概論		講義	2	●			
		精神看護学援助論		演習	1	●			
		精神看護学援助方法		演習	1	●			
		精神看護学実習		実習	2	●			

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）			卒業要件単位数
						第1～3学年	第4学年		
						前期	前期	前期	127単位以上
専門科目	地域支援	在宅看護学概論		講義	2	●			79単位以上 ●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上 （看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること） ↓
		在宅看護学援助論		演習	1	●			
		在宅看護学援助方法		演習	1	●			
		在宅看護学実習		実習	2	●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2	●			
		公衆衛生看護学活動論		講義	2	●			
		公衆衛生看護学活動方法	◎	演習	1	○			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		実習	1	●			
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1		○		
		先端医療に伴う看護技術		演習	1		○		
		医療カウンセリング		演習	1		○		
		緩和ケアと代替・補完療法		演習	1		○		
	保健師科目	公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2	○			
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1			◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4			◇	
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2	○			
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1	○			
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3		◇		
		助産管理	☆	講義	1		◇		
		助産学実習	☆	実習	8			◇	
	統合	家族看護学		講義	2	●			
		チーム医療論		講義	1		●		
		看護実践と理論の統合		演習	2	●			
		看護研究法		講義	1		●		
		卒業演習		演習	3			●	
		災害看護論		講義	1	○			
		異文化看護入門		演習	1	○			
		広域統合看護学実習		実習	2			●	
		看護実践発展実習		実習	2		○		
専門科目必修単位数					72	63	3	6	
必修単位数合計					110	99	4	7	

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2）各領域の教育活動

領域名	基礎看護学
担当教員	道重文子、松尾淳子、小林道太郎、川北敬美、原明子
担当科目	くらしの中の倫理と法律、哲学、キャリアマネジメント、国際言語文化、原著講読、看護学概論、日常生活援助技術、看護アセスメント、治療過程に伴う援助技術、看護管理、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、卒業演習、広域統合看護学実習
現状の説明	1．くらしの中の倫理と法律、哲学では、基本的な事項を、医療・看護との関連も含めて講義した。国際言語文化では、ドイツ語の入門を行い、ドイツ等の異文化圏の歴史・文化を論じた。原著講読では英語の看護学論文を読んだ。 2．看護アセスメントでは関節リウマチのため右肩の人工関節置換術を受けた患者の事例を用いてNANDA-Iの枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した。 3．日常生活援助技術、治療過程に伴う援助技術では、附属病院看護部の臨床指導者等が毎回2名演習に参加しユニフィケーションを行った。 4．基礎看護学実習Ⅰでは、看護実践発展領域の教員とともに指導に当たった。 5．基礎看護学実習Ⅱでは、2グループに分け、8病棟を使って、9月と2月に学生は1週間ずつ実習した。4名の教員で指導した。 6．卒業演習は、各教員が2～3名の学生を担当し、1名1テーマで卒業論文を作成した。 7．広域統合看護学実習は、彩都友紘会病院またはガラシア病院の緩和ケア病棟、第二東和会病院の回復期リハ病棟で実施した。実習終了後にそれぞれの実習内容に則した事例を作成しOSCEを実施した。
点検評価	1．効果が上がっている事項 1）くらしの中の倫理と法律、哲学、国際言語文化では、関連事項への学生の関心を喚起することができた。原著講読では英語論文を読む基礎ができた。 2）1年後期の日常生活援助技術と2年前期の治療過程に伴う援助技術の演習を通して附属病院の臨床指導者らとユニフィケーションを図ることができた。学生は、臨床指導者から現場での例なども聞き今後の学習への動機づけになっている。4年生では広域看護学実習終了後のOSCEにより、各自が今後の課題を確認することができた。 2．改善すべき事項 基礎看護学実習Ⅱでは、アセスメント力や看護ケアの実践で個人差が出ているため、看護アセスメントの演習では個人学習が必要とされるアセスメントの段階での指導強化を図り、看護技術能力の確認を行っていく。
将来に向けた発展方策・課題	臨床指導者らとの協働による基礎看護技術教育を今後も実践し、高い実践能力を身に付けられる方法や学生個々の看護技術能力を確認するため、4年生のみならず2年生におけるOSCEを検討していく。

領域名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春、寺口佐與子（12 月 1 日より着任)、肥後雅子
担当科目	成人看護学概論、急性期成人看護援助論、急性期成人看護学援助方法、急性期成人看護学実習、統合実習、卒業演習、災害看護論
現状の説明	学生たちは 1 回生時に成人看護概論で成人看護一般の対象者と成人看護の特徴を学ぶ。急性期に関する内容は健康破綻をする対象、それに伴う心理的社会的特徴を学び、2 回生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の身体的心理的社会的な看護問題とその介入について学ぶ。3 回生前期に急性期成人看護学援助方法で、これまでの既習の知識を活用し、事例をもとに急性期にある患者(手術を受ける患者)の看護計画を立案し、周術期に沿ってロールプレイ演習を行いながら、具体的な看護介入方法を学ぶ。後期に急性期看護学実習で実際に手術を受ける患者を通して、生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案し、実行し、評価するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。4 回生の統合実習、卒業演習では 1～3 回生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て、興味のある看護について実習及び看護研究に取り組み、看護の専門性についても学んだ。
点検評価	1．効果が上がっている事項 急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について、講義、演習、実習と一貫した内容を教授することで、学生も急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象、アセスメント、看護ケアを学んでいる。 2．改善すべき事項 1）1，2 回生で「生命の危機的状況」ということが理解できなければ 3 回生以降の演習や実習での看護過程の展開は難しいと感じてしまい、やる気を出さなくなる可能性があるため、根気よく指導する必要がある。 2）演習に必要な物品の準備が不十分であったので、事例に対応した物品の確保が必要である。 3）実習では「生命の危機的状況」を強調するあまり、心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ、早期から身体的心理的社会的側面を統合することを指導することが必要であった。
将来に向けた発展方策・課題	学生が自ら考えるという姿勢を持つことが大事であるので、演習、実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭に関わり、「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れることにする。

領域名	慢性期成人看護学領域
担当教員	田中克子、カルデナス暁東
担当科目	成人看護学概論、慢性期成人看護学援助論、慢性期成人看護学援助方法、慢性期成人看護学実習、成人保健看護学実習、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	「概論」では、後続する援助論、援助方法、実習に連動できるように健康レベルに対応した成人看護学の概要を組み入れ講義、グループワークを行った。「援助論」では、病期の特徴と発症頻度を考慮して代表的な疾患を例に挙げ、教科書の理解を中心にして、病気の成因と看護援助の関係が理解できるように工夫した。「援助方法」では、教員が作成した事例展開と看護援助方法の演習資料を用い、講義、演習を行った。事例展開、技術演習に関して、考え方の基本を理解できるように各個人の事前学習を踏まえて、対象者の健康レベルに合わせて援助方法を考え実施し評価できるように、学生の創意工夫の視点を重視した。「領域実習」は代謝・内分泌系、内科系混合の４つの病棟で、原則として１人の受け持ち患者を担当し、様々な健康レベルの人とその家族に対する系統的な看護過程の展開を通じて、慢性期看護学の特質を考察できることを重視した実習を展開した。「広域統合実習」は、学生の各自の実習テーマに応じて、大阪医科大学附属病院、高槻赤十字病院（緩和ケア病棟）、徳洲会沖永良部島病院で行った。「卒業演習」は、学生がテーマに応じて文献検索の論文を作成した。「成人保健看護学実習」は、地域に住む様々な健康レベルの人々とその家族に対する看護援助を学ぶことを目的に、外来部門やフィールドワークを中心に主体的に実習の展開を行った。
点検評価	1．効果が上がっている事項 独自に作成した演習資料に基づき、学習課題、講義、実技演習と体系化したことは学習を深める上で効果があったと考える。「成人保健看護学実習」では学生に主体的にテーマを選定し、フィールドワークを通じて地域における生活者の看護援助を具体的に考察することができた。 2．改善すべき事項 「援助論」「援助方法」は、テーマと授業時間配分が十分とは言えないので、学生の事前学習、事後学習は必須である。「実習」は、個別指導を必要とする学生への関わり方と個別指導を実際に行うには別途人員確保について検討する必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	毎回の授業を大事にして、関連知識・技術を統合的に活用して、病気を持つ人とその家族の看護援助について系統的に思考を深め、創意工夫できるようにする。学生の体験を増やすような演習・実習展開方法の工夫が必要である。

領域名	老年看護学
担当教員	小林貴子、横山浩誉、上山ゆりか、小林寛子（非常勤教員）
担当科目	老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助方法、老年保健看護学実習、老年看護学実習、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	老年看護学概論（2 回生前期・2 単位・講義）：老年期を健やかにその人らしく生きることを健康と生活の視点から支援する老年看護の基盤を講義した。老年看護学援助論（2 回生後期・1 単位・演習）：高齢者の健康障がいを、生活行動と関連させアセスメントができるように老年期の基礎的な知識及び援助の根拠、看護過程の特徴について論じた。老年看護学援助方法（3 回生前期・1 単位・演習）：高齢者擬似体験装具を装着し演習を行った。また、事例を用いて看護展開方法を教授し、個別学習・グループ学習で看護展開を再考した。介護予防の視点を論じ高齢者の生活の拡大支援と援助方法について演習し、高齢者を対象とした看護への理解を深めた。老年保健看護学実習（3 回生後期・2 単位・実習）：通所介護サービス（計 5 ヵ所）、及び介護予防事業 （計 6 ヵ所・元気体操クラス・ますます元気教室・元気健幸教室・健康サポートひろば）に教員や臨地実習指導者の指導のもと安全に実習をすすめることができ、95 名（/96 名中）が単位を修得した。老年看護学実習（3 回生後期・2 単位・実習）：2 グループに分かれ介護老人保健施設において、受け持ち高齢者の生活援助技術の体験、看護展開をし、グループ学習にて高齢者理解を深めた。教員及び臨地実習指導者の指導により安全に実施し、1 名の学生（感染症にて欠席）を除き 95 名（/96 名中）が単位を修得した。広域統合看護学実習（4 回生前期・2 単位・実習）：介護老人保健施設、介護老人福祉施設、デイサービスでの実習を実施し、高齢者理解を深めることができた。 卒業演習（4 回生通年・2 単位・演習）：領域各教員が 2～4 名の学生を担当し、学生の関心のあるテーマにそって計画的にすすめ、卒業論文を作成した。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 教員が充足し、老年看護学実習では、スタッフと教員との連携を密にとることで、学生が看護ケアに積極的に参加できるようになった。卒業演習、広域統合看護学実習は学生が主体的に参加できるよう支援できた。 2. 改善すべき事項 学内での技術演習不足があり、実習での血圧測定・移乗介助などの基本的技術の習得不足が目立っていた。非常勤雇用も念頭におきながら演習の強化をする必要がある。老年看護学実習施設より実習受け入れ回数の減少への依頼があり、他実習施設を依頼したが、今後、実習施設の開拓により回数減に関する対応・調整が課題である。
将来に向けた発展方策・課題	より多様な視点から高齢者理解を深めることを探求すること及び実習 2 科目 4 単位の同時実施には、臨地における高齢者の安全確保とさらなる学生の学習目標達成のための指導方法を探求するとともに、恒久的な実習指導教員の充実を図る。

領域名	小児看護学
担当教員	泊祐子、竹村淳子、曽我浩美、岡田育恵（非常勤教員）
担当科目	小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学援助方法、家族看護学、小児看護学実習、実践と理論の統合、広域統合実習（小児）、卒業演習
現状の説明	「小児看護学概論」では、小児看護学の対象となる子どもと家族の理解を主眼としている。また講義とともに院内保育室での見学は継続して実施している。 「小児看護学援助論」では、小児期特有の健康障害に関し、疾患と治療の理解と症状のアセスメント、特に発達の相違による観察事項等小児看護特有の知識と考え方を教授した。「小児看護学援助方法」では、健康段階別・状況別の援助方法について教授し、「清拭」の演習を追加した。「家族看護学」では、家族看護理論の適用に関し、グループワークで事例に取り組み、理解を深めた。「実践と理論の統合」では、実習前のロールプレイングで実践力の確認をし、実習後のグループワークで学びを共有した。「小児看護学実習」では、小児病棟・外来及び小中学校・特別支援学校での実習を行い、小児期に特有の健康障害がある子どもへの看護の実際を学んだ。また、学校における健康管理の実際や学校種別による相違、看護職の役割について学んだ。「広域統合実習（小児）」では、高度医療施設、急性期医療施設、障害児医療施設の 3 施設に分かれて実施している。そこでは 3 年次の学びを基盤とした実習を行った。あらゆる状況における小児と家族への支援とチーム医療の実際についての学びを深めた。昨年に引き続き、実習施設の指導者を招いて発表会を実施した。「卒業演習」では、9 人の学生が小児看護学を選択した。各学生の関心からテーマを絞り、研究方法の選択、実施、論文執筆と発表までの取り組みを行った。研究方法は事例研究と文献検討であった。
点検評価	1．効果が上がっている事項 「小児看護学援助方法」で「清拭」を演習項目として追加し、小児の特性を考慮した方法とした。その結果、実習での援助時に少しの助言で適切に実施できるようになった。 「広域統合看護学実習」では終了後の合同での報告会は、人に学びを伝えるための思考を深め、さらに視野を広げられていると思われる。 2．改善すべき事項 「実践と理論の統合」におけるロールプレイングは、なるべく多くの学生が実施できる方向に改善を要する。
将来に向けた発展方策・課題	実習前の「実践と理論の統合」について、参加している学生が全員で取り組める演習方法に改善する。

領域名	母性看護学・助産学
担当教員	佐々木綾子、竹明美、西頭知子、丹治恵実（育児休業中）
担当科目	セクシュアリティと看護、リプロダクションと看護、母性看護学概論、母性看護学援助論、母性看護学援助方法、母性看護学実習、助産学概論、助産診断・技術学 I、助産診断・技術学 II、助産管理、助産学実習、看護実践と理論の統合、卒業演習、広域統合看護学実習
現状の説明	1. 講義は、学生のこれまでの既履修科目をふまえ、予習課題、授業、復習課題により知識習得できるよう展開した。さらに学生の興味・関心を高め、自ら学び考えることのできる、参加型を重視した講義を行った。 2. 演習科目では、実践的演習を目指し、オリジナルのアセスメントツール、実践的模擬事例、教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成を目指した。 3. 学生の前年度評価結果をオリエンテーション資料に反映させ、改善点を明確にした。講義・演習科目の評価方法としてルーブリック評価を活用し、評価の「見える化」を行った。 4. 実習では、実習施設との連携、教育設備の充実、教材整備・教材開発、医学部・附属病院看護部との連携により、基本的な看護実践能力の育成を行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 学生による授業評価科目では、概ね良い評価が得られていた。予習課題、授業、復習課題による教育は、学生の専門知識・技術の習得に加え、学士力育成にも寄与できたと考える。また、前年度レポート未提出者がみられたため、今年度は提出を期末試験受験の必要条件とした。効果がみられレポート未提出状況は改善できた。実習中の看護学事故報告については、実習オリエンテーションで具体的な事例を紹介し、学生の認識を高めたことなどから、前年度より減少した。 2. 改善すべき事項 再試験者がみられた科目があった。次年度も、小テストや練習問題、予習課題で知識習得を促すことができるよう教授方法を工夫する。 助産学実習選択学生のうち、3 名が公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健師国家試験必須科目）選択予定であったが、うち 2 名が実習前に辞退した。理由としては予想以上に公衆衛生看護学科目履修が困難であったことがあげられた。これを受けて次年度の選抜時は科目履修状況がイメージでき、その上で選抜に挑むことができるようオリエンテーション内容を強化、公衆衛生看護学領域と協力する。
将来に向けた発展方策・課題	1. PDCA サイクルを基本とする。母性看護学・助産学の科目間の連携を強め、効率的・効果的な授業展開方法を展開する。視覚支援教材などの積極的活用、学生の習得状況を丁寧に確認し、看護実践力を育成する。 2. 助産学実習履修学生がスケジュールを自ら調整し、確実な知識・技術取得に加え、生涯学習力の基盤となる能力を育成できるよう教育方法を検討する。

領域名	精神看護学領域
担当教員	荒木孝治、元村直靖、瓜﨑貴雄
担当科目	人間関係論、精神看護学概論、精神看護学援助論、精神看護学援助方法、精神看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習、卒業演習、心理学、大阪を学ぶ、健康科学概論、医療倫理学、医療カウンセリング
現状の説明	（荒木、瓜﨑）：精神看護学概論では精神看護の基本概念を、精神看護学援助論では精神疾患とその看護について基本的知識を、精神看護学援助方法では事例を用いて精神疾患患者への看護方法を教授した。精神看護学実習では、デイケア実習も配置しつつ、主には本学附属病院精神神経科病棟あるいは単科精神科病院である新阿武山病院にて、看護過程を展開し、基礎的実践能力を養った。広域統合看護学実習では、新阿武山病院のデイケア・作業療法室・訪問看護室と、大阪府立精神医療センター（男子高度ケア病棟、女子高度ケア病棟、児童思春期病棟のいずれか）でマネージメントや包括医療の視座を盛り込んで実習を展開した。卒業演習では、学生の関心に沿って、論文指導を行った。主題は「我が国における過去 10 年間のうつ病予防の取り組みと今後の課題」、「長期療養中の統合失調症の子どもを持つ母親の思いに関する文献検討」、「精神科病棟における統合失調症患者の心理教育の現状に関する文献検討」など計 6 題であった。 （元村）：心理学（1 年生配当）では、主に正常な人間の心理の理解を深めるとともに、認知心理学、人間性心理学、臨床心理学など多彩な心理学の領域を広く教授した。卒業演習（4 年生配当）の主題は、「看護師のピアカウンセリングの効果について」、「統合失調症患者及びコンコーダンス・スキルに関する文献検討」であった。
点検評価	1．効果が上がっている事項 （荒木、瓜﨑）：実習では、学生がこれまでに授業で学習した知識を活用し、受け持ち事例をより深く検討できるように、面談の機会を増やし、学生の理解度を把握した上で指導を行った。その結果、学生が患者に関心を向け続けられ、患者の生活歴や患者の興味・関心を踏まえた看護の具体策を見出すことができた。 （元村）：本年度は、数名の学生が大阪医科大学附属病院の外来で研鑽を積んだ。 2．改善すべき事項 （荒木、瓜﨑）：精神看護学実習において、事前学習を促していくこと、実習施設ごとの学びを共有していくこと、個人情報の管理の徹底について対策を強化していくことが必要である。 （元村）：学生の患者との接し方について、なお対応すべきことがある。
将来に向けた発展方策・課題	（荒木、瓜﨑）：精神障がい者の地域での生活の促進について、実習で受け持ち患者の退院後の生活を考える中で、学生はその課題の重要性に気づいていたが、そのための方策を検討することができるように授業を工夫していく必要がある。 （元村）：精神疾患患者が、様々な場所で共生していることを理解する。

領域名	在宅看護学領域
担当教員	真継和子、佐野かおり（H27 年 7 月～）、楢原理恵（助教、H27 年 6 月末まで）
担当科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論、在宅看護学援助方法、在宅看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	「在宅看護学概論」では、知識の定着を図るため毎回の課題提示と確認テストの実施、復習ツールとして授業資料の UNIPA 掲示をした。また、社会資源のひとつである制度の理解を強化するために事例検討を実施した。「在宅看護学援助論」では、在宅看護学実習での戸惑いを軽減するためによく体験する在宅人工呼吸療法、呼吸理学療法に関する演習時間を増枠した。「在宅看護学援助方法」では、健康障害の種類と健康段階に応じた援助方法について、実習との連動を考慮し 3 つの紙上事例を用いて展開した。 「在宅看護学実習」では、本学附属病院広域医療連携センターと訪問看護ステーションでの実習を行った。訪問事例数を 1 日 2～3 件と制限、対象の理解とニーズに沿った具体的な訪問看護計画の立案、実施、評価ができるよう強化するとともに、学生が積極的にケアに参加できるよう調整した。「看護実践と理論の統合」では、在宅特有の看護技術演習を強化した。また施設間での学びの共有を深めるため、実習グループを再構成しカンファレンスを実施した。 「広域統合看護学実習」は 7 名、「卒業演習」は 5 人の学生が選択した。退院支援・退院調整、在宅ターミナルケア、認知症高齢者のケアなど、それぞれの課題意識にもとづいた実習を展開した。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 講義における事前の課題提示と授業資料の UNIPA 掲示は、学生の知識定着につながっていると思われる。「在宅看護学援助方法」と「在宅看護学実習」の連動を考慮した事例展開の実施や在宅基礎看護技術の演習は、実習で学生の戸惑いを軽減し、対象理解を深めることにつながったと思われる。 2. 改善すべき事項 在宅人工呼吸療法は学生が実習でよく経験している。具体的イメージを持つためには、事前準備として学内で「みる」、「触れてみる」などの経験を重視した演習が必要である。効果的な演習展開ができるよう、教員のマンパワー不足も課題である。
将来に向けた発展方策・課題	からだの動きと連動させ根拠のある在宅基礎看護技術の習得ができるよう、映像や技術演習ツールを作成し授業展開の充実を図る。 「在宅看護学実習」では他領域と異なり、教員が実際のケアの場に参加することは難しい。指導者やスタッフとの問題共有や共同学習を通して学習環境を整え、学生の批判的思考態度が形成されるよう教育方法の検討、実施が必要である。

領域名	公衆衛生看護学
担当教員	吉田久美子、土手友太郎、草野恵美子、(月野木ルミ)
担当科目	くらしと社会・環境：選択科目 2 単位、保健福祉医療概論：必修科目 2 単位、統計学：必修科目 2 単位、公衆衛生学・疫学：必修科目 2 単位、公衆衛生看護学概論：必修科目 2 単位、公衆衛生看護学活動論：必修科目 2 単位、公衆衛生看護学活動方法：選択科目で 1 単位、公衆衛生看護学管理論：選択科目 2 単位、ヘルスプロモーション：選択科目 1 単位、公衆衛生看護学演習：選択科目　1 単位、公衆衛生看護学実習Ⅱ：選択科目
現状の説明	昨年度公衆衛生看護学実習Ⅰ必修科目を実施したため、今年度は開講しなかった。選択学生による公衆衛生看護学実習Ⅱを 6 月 8 日～12 月 25 日(8 月を除く)までの期間、計 11 グループに分かれて、それぞれ 4 単位の実習（4 週間）を実施した。実習地は、大阪府下では高槻市保健所、大阪市東淀川区保健福祉センター、茨木保健所及び茨木市であった。府外では、兵庫県宍粟市、兵庫県神河町、兵庫県赤穂市、鹿児島県知名町、鹿児島県和泊町であった。新カリキュラムでは実習前の集中講義として 30 時間の「公衆衛生看護学演習」が組み込まれている。この科目を活用し、地域診断や健康教育、家庭訪問等の演習を行い、円滑な実習に結びつくよう、また、実習に向けた自己及びグループの課題を明確化するよう努めた。1 名の教員が育児休業を取得したことから、非常勤教員 2 名、実習補助員 1 名の協力を得て、公衆衛生看護学実習Ⅱを実施することができた。特に、遠隔地実習においては、実習開始日の前日から学生とともに宿泊をして、昼夜を問わず学生の健康管理に留意した。
点検評価	1. 効果が上がっている事項：公衆衛生看学実習の直前に、地域診断や健康教育及び家庭訪問の演習を行うことで、学生は実習に向けた課題が明確になり、自己の目標を設定することで主体的に取り組んでいた。特に、地域診断については、演習で地域特性を把握し,実習中に地区踏査や保健事業に参加し、住民や指導者から助言をもらい、全施設において健康課題の抽出とさらに地域保健活動計画の立案まで実施できた。学生は、最終成果発表及びカンファレンスにて、各地域特性を比較することで保健事業の運用方法の違い等を理解した。また、実習期間中に体験できる事業には積極的に参加することで、様々な年代と健康レベルの方々を対象とする看護活動の展開や健康づくりに理解を深めていた。 2. 改善すべき事項：遠隔地を含め実習先が多いことから、地域特性による保健事業や各種連携等について学習できる内容の違いを考慮し、効果的な学びにつながるよう工夫が必要となる。実習指導者と実習前後の連絡を密にすることで実習内容の厳選と到達目標の共有を図る。
将来に向けた発展方策・課題	遠隔地で宿泊を伴う実習となり、学生や教員の負担は大きいことから、事前に学生の健康状態や人間関係の把握に努め、実習が円滑に進むように準備が重要となる。また、実習形態の工夫は今後も必要である。

領域名	看護実践発展領域
担当教員	林優子、瀧井道明、鈴木久美、西薗貞子、畑中あかね
担当科目	健康科学概論、フィジカルエグザミネーション、病気の診断、病気の治療、医療英語、看護研究法、看護教育、チーム医療論、看護と生体診断法、先端医療に伴う看護技術、緩和ケアと代替・補完療法、広域統合看護学実習、看護実践発展実習、卒業演習
現状の説明	「健康科学概論」は、健康及び健康を守り健康を作るための生き方について、ライフスタイル、生き方の選択、健康リスク、社会と環境の 4 つの視点からグループ学習を主とした授業を展開した。「フィジカルエグザミネーション」は、講義と血圧測定、心・呼吸音聴取、神経・腹部診察の演習を行った。「病気の診断」、「病気の治療」では、臨床医学のほぼ全範囲を網羅した講義を行った。「医療英語」では、テキストのリスニング後に学生の音読を促した講義を行った。「看護研究法」は、研究方法、研究倫理、文献検索、研究計画書等の講義と演習を取り入れて行った。「看護教育」は、カリキュラムの変遷と課題、キャリア発展・生涯学習について学習を進めた。また、能動的な課題発見解決学習の原理について IBL を通して展開した。「チーム医療論」、「看護と生体診断法」、「緩和ケアと代替・補完療法」は、講義と事例、IBL を用いた演習で展開した。特に「先端医療に伴う看護技術」では、講義の他 IBL の演習と連動させた看護技術の演習を取り入れた。「看護実践発展実習」は 31 名の学生が選択し、重症度やケア度の高い患者を受け持ち、アセンスメント力や実践力を強化した実習を行った。「広域統合看護学実習」は、10 名の学生を受け入れ、学生の関心領域で自ら実習目標を立案して実習を行った。「卒業演習」は、10 名の学生を受け入れ、学生の関心に沿ってテーマを設定し、がん患者の面接調査や文献レビューを行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 全般的にグループ学習を用いた授業では学生の主体的な学習を推進できた。また、IBL を活用した授業では学生が役割を持ってグループ学習を活性し、課題の発見と解決に向けた自己学習の促進につながっていた。「フィジカルエグザミネーション」の実技試験前には、学生がセルフトレーニングコーナーを使用して自主的に実技練習する取り組みがみられた。「広域統合看護学実習」及び「卒業演習」は、学生の関心を尊重し、学生自らが目標を立て、主体的に取り組めていた。 2. 改善すべき事項 「病気の診断」、「病気の治療」では、プリントの内容を簡潔にしたものが望まれる。講義に比重を置いている科目では、グループ学習などのアクティブラーニングを取り入れた授業の工夫が必要だと思われる。
将来に向けた発展方策・課題	講義科目は、オムニバスでの展開が多いため、担当教員との連携を密にし、学生が学習目標を達成できるようにすることが望まれる。また、時間内で展開する学習が、理解・活用につながるように、他の授業科目と連携する必要がある。今後もアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業展開となるよう努めていく。

6. 大学院教育活動

1)授業科目一覧

(1)博士前期課程教育研究コース　　(注) ※：選択科目　　※＊：選択必修科目

区分	科目（○数字は単位数）	開講の有無	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健①	開	1前	以下の①～④を満たし34単位以上 ①共通専門科目Ａ「看護倫理」「看護教育学」「看護学研究方法論」「看護理論」の4科目8単位 ②共通専門科目Ａ「看護学教育課程論」または「看護管理学」のいずれか1科目2単位 ③自領域専門科目から必修科目及び選択科目4科目8単位以上、全領域専門科目から3科目6単位以上 ④「特別研究」1科目8単位
	※医療科学①	開	1後	
共通専門科目Ａ	看護倫理②	開	1後	
	看護教育学②	開	1前	
	看護学研究方法論②	開	1前	
	※看護現任教育論②	未	2前	
	看護理論②	開	1前	
	※＊看護教育課程論②	開	1後	
	※＊看護管理学②	開	2前	
共通専門科目Ｂ	※フィジカルアセスメント論②	開	1前	
	※臨床薬理学②	開	1後	
	※病態生理学②	開	1前	
療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論②	開	1前	
	※看護技術開発学特論Ⅰ②	開	1前	
	※看護技術開発学特論Ⅱ②	開	1前	
	※看護技術開発学演習Ⅰ②	開	1通年	
	※看護技術開発学演習Ⅱ②	開	1後～2前	
	※移植・再生医療看護学特論Ⅰ②	開	1前	
	※移植・再生医療看護学特論Ⅱ②	開	1後	
	※移植・再生医療看護学演習②	開	1後～2前	
	※がん看護学特論Ⅰ②	開	1前	
	※がん看護学特論Ⅱ②	開	1後	
	※がん看護学演習②	開	1後～2前	
	※慢性看護学特論Ⅰ②	未	1前	
	※慢性看護学特論Ⅱ②	未	1前	
	※慢性看護援助論Ⅰ②	未	1前	
	※慢性看護援助論Ⅱ②	未	1後	
	※慢性看護学演習Ⅰ②	未	1後	
	※慢性看護学演習Ⅱ②	開	2前	
	※精神看護学特論Ⅰ②	開	1前	
	※精神看護学特論Ⅱ②	開	1後	
	※精神看護アセスメント論②	開	1前	
	※精神看護援助論Ⅰ②	開	1前	
	※精神看護援助論Ⅱ②	開	1後	
	※精神看護学演習Ⅰ②	開	1後	
	※精神看護学演習Ⅱ②	開	2前	

区分	科目（○数字は単位数）	開講の有無	配当年次	単位取得要件
地域家族支援看護学	家族看護学特論②	開	1 前	
	※周産期看護論②	開	1 前	
	※＊母性看護学特論②	開	1 前	
	※ウィメンズヘルス看護論②	開	1 前	
	※＊周産期看護援助論Ⅰ②	開	1 前	
	※＊周産期看護援助論Ⅱ②	開	1 後	
	※周産期看護演習Ⅰ②	未	1 後～2 前	
	※周産期看護演習Ⅱ②	未	1 後～2 前	
	※＊小児看護学特論	開	1 前	
	※小児と病気②	開	1 後	
	※発達障害看護論②	開	2 前	
	※＊小児看護アセスメント論②	開	1 後	
	※＊小児看護学演習②	開	1 後～2 前	
	※＊地域看護学特論②	開	1 前	
	※＊地域ケアシステム特論②	開	1 後	
	※地域母子保健論②	開	2 前	
	※＊地域看護学演習②	開	2 前	
特別研究	特別研究⑧	開	1～2 通年	

(2)博士前期課程高度実践コース　　(注) ※：選択科目　　※＊：選択必修科目

区分	科目（○数字は単位数）	開講の有無	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健①	開	1前	以下の①～④の全て、⑤～⑧のいずれか、及び⑨を満たし42単位以上 ①共通専門科目Ａ「看護倫理」「看護学研究方法論」「看護理論」の3科目6単位 ②共通専門科目Ａ「看護現任教育論」または「看護管理学」のいずれか1科目2単位 ③共通専門科目Ｂ「フィジカルアセスメント論」「臨床薬理学」「病態生理学」の3科目6単位 ④①～③を含む14単位以上 ⑤療養生活支援看護学領域選択者のうち慢性看護専門看護師を希望する者は、「慢性看護学特論Ⅰ」「慢性看護学特論Ⅱ」「慢性看護アセスメント論」「慢性看護援助論Ⅰ」「慢性看護援助論Ⅱ」「慢性看護学演習Ⅰ」「慢性看護学演習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅰ」「慢性看護学実習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅲ」の10科目24単位 ⑥療養生活支援看護学領域選択者のうち精神看護専門看護師を希望する者は、「精神看護学特論Ⅰ」「精神看護学特論Ⅱ」「精神看護アセスメント論」「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学演習Ⅰ」「精神看護学演習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅰ」「精神看護学実習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅲ」の10科目24単位
共通科目	※医療科学①	開	1後	
共通専門科目Ａ	看護倫理②	開	1後	
	※看護教育学②	開	1前	
	看護学研究方法論②	開	1前	
	※＊看護現任教育論②	未	2前	
	看護理論②	開	1前	
	※看護教育課程論②	開	1後	
	※＊看護管理学②	開	2前	
共通専門科目Ｂ	フィジカルアセスメント論②	開	1前	
	臨床薬理学②	開	1後	
	病態生理学②	開	1前	
療養生活支援看護学	慢性看護学特論Ⅰ②	未	1前	
	慢性看護学特論Ⅱ②	未	1前	
	慢性看護アセスメント論②	未	1後	
	慢性看護援助論Ⅰ②	未	1前	
	慢性看護援助論Ⅱ②	未	1後	
	慢性看護学演習Ⅰ②	未	1後	
	慢性看護学演習Ⅱ②	未	2前	
	慢性看護学実習Ⅰ②	未	1後	
	慢性看護学実習Ⅱ④	開	2通年	
	慢性看護学実習Ⅲ④	開	2通年	
	精神看護学特論Ⅰ②	開	1前	
	精神看護学特論Ⅱ②	開	1後	
	精神看護アセスメント論②	開	1前	
	精神看護援助論Ⅰ②	開	1前	
	精神看護援助論Ⅱ②	開	1後	
	精神看護学演習Ⅰ②	開	1後	
	精神看護学演習Ⅱ②	開	2前	
	精神看護学実習Ⅰ②	未	1後	
	精神看護学実習Ⅱ⑥	開	2前	
	精神看護学実習Ⅲ②	開	2通年	

領域	科目（○数字は単位数）	開講の有無	配当年次	単位取得要件
地域家族支援看護学	家族看護学特論②	開	1 前	⑦地域家族支援看護学領域選択者のうち母性看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「周産期看護論」「母性看護学特論」「ウィメンズヘルス看護論」「周産期看護援助論Ⅰ」「周産期看護援助論Ⅱ」「周産期看護演習Ⅰ」「周産期看護演習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅰ」「周産期看護実習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅲ」の 11 科目 26 単位 ⑧地域家族支援看護学領域選択者のうち小児看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「小児看護学特論」「小児と病気」「周産期看護論」「発達障害看護論」「小児看護援助論」「地域母子保健論」「小児看護学演習」「小児看護学実習Ⅰ」「小児看護学実習Ⅱ」「小児看護学実習Ⅲ」の 11 科目 26 単位
	周産期看護論②	開	1 前	
	母性看護学特論②	開	1 前	
	ウィメンズヘルス看護論②	開	1 前	
	周産期看護援助論Ⅰ②	開	1 前	
	周産期看護援助論Ⅱ②	開	1 後	
	周産期看護演習Ⅰ②	未	1 後～2 前	
	周産期看護演習Ⅱ②	未	1 後～2 前	
	周産期看護実習Ⅰ②	未	1 後	
	周産期看護実習Ⅱ④	未	2 前	
	周産期看護実習Ⅲ④	未	2 通年	
	小児看護学特論②	開	1 前	
	小児と病気②	開	1 後	
	発達障害看護論②	開	2 前	
	小児看護アセスメント論②	開	1 後	
	小児看護学演習②	開	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅰ②	開	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅱ⑥	開	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅲ②	開	2 通年	
	地域母子保健論②	開	2 前	
特別研究	課題研究④	開	1 後～2 後	⑨「課題研究」1 科目 4 単位

(3)博士後期課程

（注）※：選択科目　　※＊：選択必修科目

区分		科目（○数字は単位数）	開講科目	配当年次	単位取得要件
基盤科目		看護科学研究論②	開	1前	以下①～④をすべて満たし、合計17単位以上 ① 基盤科目「看護科学研究論」「看護学教育開発論」「英語論文演習」の3科目5単位 ② 基盤科目「看護学研究法応用論（保健統計）」「看護学研究法応用論(実験法)」「看護学教育演習」「異文化看護論」の中から1科目1単位以上 ③ 専門科目「療養生活支援看護学特論」「療養生活支援看護学演習」または「地域家族支援看護学特論」「地域家族支援看護学演習」の2科目3単位 ④ 「特別研究」1科目8単位
		※看護学研究法応用論（保健統計）①	開	1後	
		※看護学研究法応用論（実験法）①	開	1後	
		看護学教育開発論②	開	2前	
		※看護学教育演習①	未	2後	
		英語論文演習①	開	2前	
		※異文化看護論①	開	1前	
専門科目	療養生活支援看護学	※療養生活支援看護学特論②	開	1後	
		※療養生活支援看護学演習①	開	2通	
	地域家族支援看護学	※地域家族支援看護学特論②	開	1後	
		※地域家族支援看護学演習①	開	2通	
特別研究		特別研究⑧	開	1～3通	

2)博士前期課程修了者学位論文タイトル一覧

氏　名	コース 専攻分野	学位論文タイトル
大橋　尚弘	教育研究コース 移植・再生医療看護学	高齢夫婦間腎移植後にドナーとレシピエントのみで同居する夫婦のありよう
内藤　加奈子	教育研究コース がん看護学	進行膵臓がん患者の積極的治療継続の決定に至る過程
西原　望	高度実践コース 慢性看護学	在宅酸素療法患者の酸素化を促進する入浴動作の援助
間中　麻衣子	教育研究コース 母性看護学	産後うつ予防のためのオリジナルリーフレットを用いた妊娠末期妊婦への個別指導の有用性
山埜　ふみ恵	教育研究コース 地域看護学	都市部の介護予防活動における参加者同士の支え合いが日常的な近隣とのつながりに及ぼす影響

Ⅴ．　研究活動

1. 研究実績

1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

平成 27 年度　看護学部の競争的研究資金等の採択状況

研究活動			新規採択件数	継続件数	合計金額(円)
科学研究費助成事業	基盤研究（B）	代表	0	0	0
		分担	1	1	750,000
	基盤研究（C）	代表	4	8	11,100,000
		分担	2	3	550,000
	挑戦的萌芽研究	代表	0	1	500,000
		分担	0	2	380,000
	若手研究（B）	代表	0	3	1,500,000
	研究活動スタート支援	代表	0	0	0
厚生労働科学研究費補助金		代表	0	0	0
		分担	0	0	0
省庁・独立行政法人等の競争的資金（科研費を除く）		代表	1	0	36,995,968
		分担	1	0	500,000
財団等による研究助成			5	0	2,858,000
企業等による共同研究、研究助成			1	2	1,080,000
総　合　計					56,213,968

平成 27 年度科学研究費助成事業交付一覧

（研究代表者）

研究種目	氏　　名	研　究　課　題　名	交付額(円)
基盤研究(C)	カルデナス暁東	アトピー性皮膚炎女性の月経周期におけるスキンケア・メイクアップに焦点化した看護	200,000
基盤研究(C)	西薗貞子	IBL 方式を用いた看護アセスメント能力向上教育プログラムの開発	500,000
基盤研究(C)	松尾淳子	寝たきり高齢者の褥瘡予防のための圧分散と寝床内環境調整を加味したシーツの開発	500,000
基盤研究(C)	田中克子	糖尿病女性の QOL 向上にむけて妊娠・出産・育児にチャレンジできる看護援助の考案	2,100,000
基盤研究(C)	西頭知子	セクシュアリティの健やかな発達を促す教育プログラムの開発	400,000
基盤研究(C)	林優子	臓器移植看護における看護師の倫理的実践の変化－アクションリサーチを用いて－	700,000
基盤研究(C)	草野恵美子	高齢者世代が参画する地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラムの開発	700,000
基盤研究(C)	泊祐子	特別支援学校において医療的ケアを担う看護師の専門性を高める支援プログラムの構築	900,000
挑戦的萌芽研究	寺口佐與子	周術期乳がん患者の体重増減に関する続発性リンパ浮腫予防プログラムの開発	500,000
若手研究(B)	川北敬美	子育て期の看護師における雇用システムの構築	500,000
若手研究(B)	原明子	静脈血採血における最適な穿刺角度に関する研究	500,000
若手研究(B)	曽我浩美	肢体不自由児の性教育レディネスの育成 - ライフスキルの習得へのアクションリサーチ -	500,000
基盤研究(C)	小林道太郎	看護の組織倫理に関する理論的・実証的研究	1,100,000
基盤研究(C)	鈴木久美	再発乳がん患者のがんとともに生きる力を支える心理社会的看護介入プログラムの開発	700,000
基盤研究(C)	竹村淳子	在宅重症心身障害児の社会化を図る親教育支援プログラムの開発	400,000
基盤研究(C)	佐々木綾子	3 次元分娩アニメーションによる安全な分娩のためのコミュニケーション支援ツール開発	2,900,000

（研究分担者）

研究種目	氏　　名	研　究　課　題　名	交付額(円)
基盤研究(B)	草野恵美子	地域と個の「強み」を活かす公衆衛生看護技術の統合と教授法の開発	150,000
基盤研究(B)	鈴木久美	女性がん患者のリプロダクティブヘルスに関する選択を支える看護教育プログラムの開発	600,000
基盤研究(C)	草野恵美子	地区組織のコミュニティ・エンパワメントモデルの適用とハンドブックの作成	50,000
基盤研究(C)	寺口佐與子	生体肝移植のレシピエント，ドナー，家族のニーズにあった情報提供システムの構築	300,000
基盤研究(C)	道重文子	新人看護師の臨床判断力をつける学習支援システム開発の評価	20,000
基盤研究(C)	カルデナス暁東	在日中国人女性留学生の性の健康維持・増進をもたらす看護支援に関する研究	100,000
基盤研究(C)	真継和子	臨床看護師の批判的リフレクションスキルを強化するＩＣＴ教育プログラムの開発と評価	80,000
挑戦的萌芽研究	赤澤千春	新卒看護師のストレス対処能力（SOC）を活性化するストレス緩和プログラムの開発	300,000
挑戦的萌芽研究	赤澤千春	周術期乳がん患者の体重増減に関する続発性リンパ浮腫予防プログラムの開発	80,000

平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額(円)
該当なし			

平成 27 年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
国立研究開発法人　日本医療研究開発機構（AMED） 医工連携事業化推進事業	松尾淳子	携帯型超音波画像診断装置の開発・事業化	36,995,968
事業名	研究分担者	研究課題名	助成金額(円)
国立研究開発法人　日本医療研究開発機構（AMED） 成育疾患克服等総合研究事業	草野恵美子	乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究 （分担課題名）地域保健学からの保健指導のモデル開発の検討	500,000

平成 27 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
一般社団法人　日本私立看護系大学協会	肥後雅子	脳損傷による意識障害患者の表情分析	300,000
公益財団法人　在宅医療助成　勇美記念財団	横山浩誉	ICT(Information　Communication Technology)を併用した地域包括ケアを主とした在宅医療推進のための多職種連携研修会	510,000
公益財団法人　在宅医療助成　勇美記念財団	肥後雅子	在宅における遷延性意識障害患者の表情分析	1,385,000

平成 27 年度企業等による共同研究、研究助成一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費(円)
国立大学法人熊本大学大学院自然科学研究科	松尾淳子	大腸内容物の定量評価を目的とした超音波画像解析に関する研究	0*
株式会社　山忠	松尾淳子	機能性靴下の素材・構造による保温・保湿効果の科学的検証	480,000
パラマウントベッド株式会社	松尾淳子	要介護高齢者の圧力再分配を目的とする新型マットレスにおける圧力再分配･ずれ力・へたりの性能調査	600,000

＊但し、大学間の共同研究でありそれぞれで必要な経費を負担するため、本学での受入れ金額は 0 円とする。

２）各自の業績（外部資金獲得除く）

研究活動/【著書】

佐々木綾子	横尾京子，常盤洋子，岡永真由美，井村真澄，佐々木綾子他（2015）：助産師基礎教育新テキスト 第6巻， 横尾京子（編），99-120，日本看護協会出版会. 定方美恵子，関島香代子，佐々木綾子他（2016）：ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術，横尾京子他（編），2 章 1.2，6，8～10，13～16 節，メディカ出版,大阪.
鈴木久美	鈴木久美（2015）：女性性を支えるとは，鈴木久美編，女性性を支えるがん看護，2-19，医学書院，東京.
元村直靖	元村直靖（2016）：トラウマセラピーケースブックー症例にまなぶトラウマケア技法ー，星和書店，（印刷中）
松尾淳子	松尾淳子（2015）：看護のプロセス，褥瘡予防，戸ケ里泰典　井上智子編，基礎看護学，54-56，172-175，放送大学教育振興会，東京.
竹明美	平田修司，竹明美（2016）：8．母子感染症，助産師基礎教育新テキスト 第7巻，遠藤俊子（編），103-112，日本看護協会出版会. 定方美恵子，関島香代子，竹明美，他（2016）：2 章 5，12 節，ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術，横尾京子他（編），69-72，95-97，メディカ出版.
西頭知子	西頭知子（2015）：2 章産婦の看護にかかわる技術（3 節；胎児の健康状態の観察，4 節；分娩進行状態の観察と記録，7 節；破水の観察，11 節；分娩に向けた産婦の準備とケア），横尾京子他編，ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術　第3版，62-68，80-83，90-94，メディカ出版，大阪.
畑中あかね	畑中あかね（2015）：第 4 章　インスリン療法の継続のための指導・支援方法，日本糖尿病教育・看護学会編，糖尿病看護ベストプラクティス インスリン療法，103-126，日本看護協会出版会，東京. 畑中あかね，井渕奈緒美，蔵本真宏（2015）：第Ⅶ章療養指導の基本（患者教育）１～３，日本糖尿病療養指導士認定機構編，糖尿病療養指導ガイドブック 2015，103-126，メディカルレビュー社，東京. 菅原美樹，森山美香，中田諭，瀬戸奈津子，畑中あかね，箱崎恵里，貝谷敏子，片岡ひとみ，渡邉由加利，守村洋監修（2015）：基礎と臨床がつながる　疾患別看護過程，学研メディカル秀潤社，東京.

研究活動/【論文】

赤澤千春	肥後雅子，赤澤千春，林優子（2015）：生体肝移植術後レシピエントの抑うつー特性不安と家族機能に焦点を当ててー，日本移植・再生医療看護学会誌，10(2)，27-35. Risa Fukuda, Chiharu Akazawa, Chitose Arakawa (2015): Relationship between self-care continuation and self-efficacy in patients with secondary lower extremity lymphedema: A questionnaire survey, Journal of Nursing Education and Practice, 5(12).
荒木孝治	岡部英子，荒木孝治，松尾淳子，瓜﨑貴雄，正岡洋子，伏見博之（2015）：統合失調症患者の身体合併症を早期に発見するための看護研修プログラムの効果の検討，木村看護教育振興財団　看護研究集録，22，20-43. 荒木孝治，瓜﨑貴雄，藤澤由里子，岡部英子，正岡洋子（2016）：日本の精神病床におけるターミナルケアに関する文献検討，大阪医科大学看護研究雑誌，6，113-121.
小林貴子	仁科聖子，小林貴子：介護保険施設における看取りにかかわる看護職と介護職の連携，日本在宅看護学会誌，4，167-175. 小林寛子，小林貴子，上山ゆりか：地域に開放した事例検討会の意義と効果に関する文献の動向と課題，大阪医科大学看護研究雑誌，5，85-93. 東めぐみ，近藤ふさえ，横山悦子，小長谷百絵，小平京子，岡美智代，太田美帆，河口てる子，小林貴子，林優子，他（2015）：「看護の教育的かかわりモデル」を用いたアクションリサーチ，日本看護科学会誌，35，235-246
佐々木綾子	佐々木綾子，狩野知恵，波崎由美子（2016）：褥婦の分娩後入浴開始時期に関する助産師の認識および開始時期の検討，日本母性看護学会誌，16（1），（印刷中） 佐々木綾子，波崎由美子，岸上きみゑ，鈴木秀文，山本宝（2016）：産後 1 か月の褥婦の入浴開始時期に関する実態（３）-改訂版リーフレットによる説明を受けた褥婦の行動と認識-，第 46 回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション，（印刷中）
鈴木久美	林直子，鈴木久美，他（2015）：子育て期の女性および乳がん体験者が考える乳がん検診の受診を促進する要点，保健の科学，57(8)，638-643. 鈴木久美，林直子，他（2015）：乳がん体験者との協働による乳がん啓発教育プログラムの開発と評価，保健の科学，57(9)，638-643. Yaeko Kataoka, Kaoru Ohbayashi, Kumi Suzuki (2015): Outcome evaluation of an educational program for Japanese midwives to promote breast awareness for women, Women and Birth, 28(4), e164-e170. 鈴木久美，林直子，大畑美里，他（2016）：乳がん早期発見のためのセルフケアを促す DVD 教材の開発と評価，大阪医科大学看護研究雑誌，6，23-29. 内藤加奈子，鈴木久美（2016）：進行がんおよび終末期がん患者とその家族の意

	思決定に関する文献検討，大阪医科大学看護研究雑誌，6，76-84.
瀧井道明	土手友太郎，中山紳，瀧井道明，他（2015）：私立大学の教職員における健康管理および特定保健指導への要望状況に対する意識調査，大阪医科大学看護研究雑誌，5，6-14. Yabunaka K, Matsuo J, Takii M, et al. (2015): Sonographic visualization of fecal loading in adults: comparison with computed tomography. Journal of Diagnostic Medical Sonography, 31(2), 86-92.
田中克子	田中克子，カルデナス暁東，西尾ゆかり：中国山西省人民病院の管轄区域「社区看護」の視察から見る継続看護の現状，大阪医科大学看護研究雑誌，5，97-101. カルデナス暁東，田中克子，花房俊昭，西尾ゆかり：日本と中国の両施設における糖尿病患者の自己管理の現状と生活の質に関する比較（第一弾），日本慢性看護学会誌，9(1)，10-14. カルデナス暁東，森脇真一，田中克子，河嶋公美子：メイクセラピーを融合したスキンケア指導を通して生活の質を高めたアトピー性皮膚炎成人期女性患者の 1 例，大阪医科大学雑誌，74(1・2)，51-55. 田中克子，カルデナス暁東，和栗雅子，川村智行，堤千春，花房俊昭：妊娠・出産に向けた 1 型糖尿病女性の自己管理のための援助，日本糖尿病・妊娠学会誌，（印刷中）
土手友太郎	Dote T, Nakayama S, Kusabiraki K, et al. (2015): Attitude survey of health management and application status for specific health guidance among faculty and staff members at a private university, Osaka Medical College Nursing Research, 5, 6-14. Dote T, Takii M, Yoshida K, et al.: Comparison of specific health checkup results between individuals with municipal national insurance and those with mutual insurance: focusing on stage of change and application to counseling from 2009 to 2011. Bulletin of the Osaka Medical College, 61(1), (in print) Dote T, Nakayama S, Hayashi E, et al. (2015): Effect of Specific Health Checkup Stratifications based on Stage of Change, Criteria Values and Healthy Lifestyle at A Particular Health Checkups for Three Consecutive Years. Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology, 63, 159-166. 土手友太郎，吉田久美子，中山紳，　他　（2015）：特健階層と腹部肥満区分の保健指導の要望、拒否理由、生活改善の有効要因の検討，成人病と生活習慣病，45(5)，656.
林優子	上谷千夏，瀬戸奈津子，谷本真理子，高橋奈美，添田百合子，林優子（2015）：日本における植え込み型除細動器治療選択の意思決定支援に関する文献検討，日本慢性看護学会誌, 9(2), 67-73.
道重文子	川北敬美，原明子，松尾淳子，道重文子（2016）：看護師の雇用形態および職位からみた職務特性，職務満足度，成長欲求度の比較，大阪医科大学看護研究雑誌，6，12-22.

元村直靖	Naoyasu Motomura, Akiko Wakabayashi, Yasuo Kawabata (2016): Prolonged exposure therapy for patients with PTSD. School Crisis and Mental health, (in print) 井出健太郎，千葉俊周，金澤徹文，元村直靖（2015）：認知機能障害からみた PTSD 特集－日常臨床に活かす認知機能障害の病態・評価・治療，精神科治療学，30，11，1501-1505.
吉田久美子	Dote T, Takii M, Yoshida K, et al.: Comparison of specific health checkup results between individuals with municipal national insurance and those with mutual insurance: focusing on stage of change and application to counseling from 2009 to 2011. Bulletin of the Osaka Medical College , 61(1), (in print) 土手友太郎，吉田久美子，中山紳，他（2015）:特健階層と腹部肥満区分の保健指導の要望、拒否理由、生活改善の有効要因の検討，成人病と生活習慣病，45(5)，656.
カルデナス暁東	田中克子，カルデナス暁東，西尾ゆかり：中国山西省人民病院の管轄区域「社区看護」の視察から見る継続看護の現状，大阪医科大学看護研究雑誌，5，97-101. カルデナス暁東，田中克子，花房俊昭，西尾ゆかり：日本と中国の両施設における糖尿病患者の自己管理の現状と生活の質に関する比較（第一弾），日本慢性看護学会誌，9(1)，10-14. カルデナス暁東，森脇真一，田中克子，河嶋公美子：メイクセラピーを融合したスキンケア指導を通して生活の質を高めたアトピー性皮膚炎成人期女性患者の 1 例，大阪医科大学雑誌，74(1・2)，51-55. 田中克子，カルデナス暁東，和栗雅子，川村智行，堤千春，花房俊昭：妊娠・出産に向けた 1 型糖尿病女性の自己管理のための援助，日本糖尿病・妊娠学会誌，（印刷中） カルデナス暁東（2015）：アトピー性皮膚炎女性のスキンケア・メイクアップに焦点化した看護（総説），BIO Clinica，31(2)，64－69.
草野恵美子	岡本玲子，鳩野洋子，小出恵子，長野扶佐美，岩本里織，草野恵美子（2015）：保健活動の必要性を見せる行動尺度の開発，日本公衆衛生雑誌，62(6)，271-280. Teramoto C, Nagata S, Okamoto R, Suzuki R, Kishi E, Nomura M,Jojima N, Nishida M, Koide K, Kusano E, Iwamoto S, Murashima S (2015): Identifying Residents' Health Issues Six Weeks after the Great East Japan Earthquake, Public Health Nurs, 32(6), 654-661. 土手友太郎，中山紳，玉置淳子，瀧井道明，吉田久美子，草野恵美子，月野木ルミ，横山浩誉，山埜ふみ恵（2016）：私立大学の中年男性職員における特健階層および腹部肥満区分に基づく健康意識，行動変容ステージ，保健指導の要望に関する調査研究，大阪医科大学看護研究雑誌，6，3-11. 山埜ふみ恵，草野恵美子，吉田久美子（2016）：地域在住高齢者のソーシャルサポートの授受に関する文献検討，大阪医科大学看護研究雑誌，6，94-103.

小林道太郎	小林道太郎（2015）:「悩み、決断すること」から個性・性格を考える，中部哲学会年報，46，28-37. 小林道太郎（2016）:病棟看護師の語りの現象学的分析から:「患者の希望に沿うこと」とケアリングの徳，大阪医科大学看護研究雑誌，6，36-46. 小林道太郎，真継和子（2016）:病院看護部の倫理委員会における事例検討はどのように受け止められているか，大阪医科大学看護研究雑誌，6，52-58. 真継和子，小林道太郎（2016）:倫理事例検討会からみえてきた看護倫理教育上の課題，大阪医科大学看護研究雑誌，6，47-51.
松尾淳子	川北敬美，原明子，松尾淳子，道重文子（2016）:看護師の雇用形態および職位からみた職務特性，職務満足度，成長欲求度の比較，大阪医科大学看護研究雑誌，6，12-22.
真継和子	真継和子，小林道太郎（2016）:倫理事例検討会からみえてきた看護倫理教育上の課題，大阪医科大学看護研究雑誌，6，47-51. 小林道太郎，真継和子（2016）:病院看護部の倫理委員会における事例検討はどのように受け止められているか，大阪医科大学看護研究雑誌，6，52-58. 佐野かおり，宮島朝子，真継和子，後藤公志，杉本正幸（2016）:人工股関節全置換術患者の退院移行期における各種歩行指標に関する予備的研究，大阪医科大学看護研究雑誌，6，30-35.
瓜﨑貴雄	岡部英子，荒木孝治，松尾淳子，瓜﨑貴雄，正岡洋子，伏見博之（2015）:統合失調症患者の身体合併症を早期に発見するための看護研修プログラムの効果の検討，木村看護教育振興財団　看護研究集録，22，20-43. 荒木孝治，瓜﨑貴雄，藤澤由里子，岡部英子，正岡洋子（2016）:日本の精神病床におけるターミナルケアに関する文献検討，大阪医科大学看護研究雑誌，6，113-121.
月野木ルミ	月野木ルミ, 村上義孝, 早川岳人, 橋本修二（2016）:疫学研究論文レビューからみた震災発生からの経過時間と疾患発生との関連．日本公衆衛生雑誌．63(1)，17-25. 土手友太郎, 中山紳, 月野木ルミ, 他（2016）:私立大学の中年男性職員における特健階層および腹部肥満区分に基づく健康意識，行動変容ステージ，保健指導の要望に関する調査研究，大阪医科大学看護研究雑誌，6，3-11. Dote T, Nakayama S, Tsukinoki R, et al. (2015): Attitude survey of health management and application status for specific health guidance among faculty and staff members at a private university, Osaka Medical College Nursing Research, 5, 6-14. Dote T, Takii M, Tsukinoki R, et al.: Comparison of specific health checkup results between individuals with municipal national insurance and those with mutual insurance: focusing on stage of change and application to counseling from 2009 to 2011. Bulletin of the Osaka Medical College, 61(1), (in print)

横山浩誉	Dote T, Nakayama S, Yokoyama H, et al. (2015): Attitude survey of health management and application status for specific health guidance among faculty and staff members at a private university, Osaka Medical College Nursing Research, 5, 6-14. Dote T, Nakayama S, Yokoyama H, et al. (2015): Effect of Specific Health Checkup Stratifications based on Stage of Change, Criteria Values and Healthy Lifestyle at A Particular Health Checkups for Three Consecutive Years. Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology, 63, 159-166. Usuda K, Tamaki J, Yokoyama H, et al. (2015): Comparison of the Biological Impacts of the Fluoride Compounds by Graphical Risk Visualization Map Technique, Biol Trace Elem Res, 167(1) , 84-90. 北村有香，横山浩誉，小林貴子（2015）：A 市における「認知症を理解し地域で支える会」の取り組みに関する研究　認知症高齢者の家族と医療・福祉職、地域住民が会に参加する意味，大阪医科大学看護研究雑誌，5，54-64.
川北敬美	川北敬美，原明子，松尾淳子，道重文子（2016）：看護師の雇用形態および職位からみた職務特性，職務満足度，成長欲求度の比較，大阪医科大学看護研究雑誌，6，12-22.
佐野かおり	Sano K, Miyajima A, Matsugi K, Goto K, Sugimoto M (2016): A preliminary Study on the Several Walking Indicators following Total Hip Arthroplasty, Osaka Medical College Journal of Nursing Research, 6, 30-35
肥後雅子	肥後雅子，赤澤千春，寺口佐與子（2015）：日本における生体肝移植術後レシピエントの HRQOL，日本移植・再生医療看護学会誌，(11)2.

研究活動／【学会発表】

赤澤千春	Chiharu Akazawa, Sayoko Teraguchi, Teiko Nishizono, Chitose Arakawa, Masae Yamamoto (2015): How Living-Donor Liver Transplant Recipient's Self-management Behavior is Affected by Number of Years Since Transplantation, CAST, (シンガポール) Sayoko Teraguchi, Chiharu Akazawa, Teiko Nishizono, Masako Higo, Chitose Arakawa, Masae Yamamoto (2015): Years-Since-Transplant and Quality of Life for Living-Donor Liver Transplant Recipients, CAST, (シンガポール) Nami Tanimizu, Akihiro Shuda, Yuko Hayashi, Tomoko Imanishi, Chiharu akazawa (2015): The Ethical Conflicts in Organ Transplant Nursing Care and The Influencing Factors, CAST, (シンガポール) Teiko Nishizono, Chiharu Akazawa, Sayoko Teraguchi, Chitose Arakawa（2015）: The Current Situation of Self-Management of Recipients Who Received Transplants More Than Five Years Ago, CAST, (シンガポール) Yuki Yoshikawa, Junji Uchida, Chiharu Akazawa (2015): Literature Review of Pregnancies and Childbirths After Kidney Transplantation in Japan, CAST, (シンガポール) 赤澤千春，福田里砂，荒川千登世（2015）：下肢リンパ浮腫患者のセルフケアの継続を支援するための評価方法の検討―簡易体組成計を用いて―，第 35 回日本看護科学学会学術集会，（広島）
荒木孝治	岡部英子，荒木孝治，瓜﨑貴雄，正岡洋子，伏見博之（2015）：統合失調症患者の身体合併症を早期に発見するための看護研修プログラムの効果の検討, 日本精神保健看護学会第 25 回学術集会，126，（つくば）
小林貴子	小林貴子，雪本和佳子，畑中あかね，小林道太郎，西本典子：地域に開放した事例検討会に意義―訪問看護の一事例の検討を通して―, 第 9 回日本慢性看護学会学術集会，日本慢性看護学会誌，9(1)，A83（高槻）
佐々木綾子	佐々木綾子，波崎由美子，岸上きみゑ，鈴木秀文，山本宝（2015）：産後 1 か月の褥婦の入浴開始時期に関する実態 (3)，改訂版リーフレットによる説明を受けた褥婦の行動と認識，第 46 回日本看護学会 - ヘルスプロモーション - 学術集会抄録集，188，（富山） Ayako Sasaki, Tomoko Nishito, Kumiko Sasaki, Yumiko Namizaki, Yuri Hayashi, Ryo Konno, Kenichi Matsuki (2015): Evaluation of the educational program by Midwives on cervical cancer screening provided for mothers, The 11th ICM Asia Pacific Regional Conference, Program & Abstract Book, 261, (Yokohama) Ayako Sasaki, Yumiko Namizaki (2015): Examination of the Beginning Period of Bathing by Postpartum Women, The 11th ICM Asia Pacific Regional Conference, Program & Abstract Book, 188, (Yokohama) 佐々木綾子，波崎由美子（2015）：産後 1 か月の褥婦の子宮頸がん・検診・子宮頸がん予防ワクチンに関する知識・意識の実態，第 35 回日本看護科学学会学術集会講演集，（広島）

	佐々木綾子,竹明美（2016）：回旋異常の診断と対応・ケアに関する文献検討 第30回日本助産学会学術集会抄録集,（京都）
鈴木久美	林直子， 鈴木久美，中山直子他（2016）：女性乳がん患者の妊孕性温存に関する選択の現状と課題，第30回日本がん看護学会学術集会，233,（千葉）
瀧井道明	井元章，増田大介，瀧井道明，他（2015）：当院における高齢者に対する総胆管結石治療の現状，Gastroenterological Endoscopy， 57（Suppl 1），862,（大阪） 増田大介，小倉健，瀧井道明，他（2015）：当科における自己免疫性膵炎の診断に対する超音波内視鏡穿刺術の意義，膵臓30(3)，392,（名古屋） 田邉将之，松尾淳子，瀧井道明，他（2015）：超音波信号を用いた大腸内容物の分類に関する研究，日本医用画像工学会大会抄録集,（東京） 井元章，小倉健，瀧井道明，他（2015）：EUS-FNAは十二指腸乳頭部腫大における鑑別診断に有用か？，胆道20(3)，540,（東京） 瀧井道明（2015）：膵疾患の診断と治療―膵炎を中心に，守口市医師会学術講演会抄録集,（守口） 瀧井道明，増田大介，樋口和秀（2016）：胆膵疾患における適切な栄養療法導入のための呼気試験による消化吸収能の評価,第104回日本消化器病学会近畿支部例会プログラム・抄録集，47,（大阪）
田中克子	塚原光子，西尾ゆかり，カルデナス暁東，田中克子：成人期におけるアトピー性皮膚炎患者に関する看護研究の動向,第9回日本慢性看護学会学術集会，A76,（高槻） 櫻本弓恵，カルデナス暁東，田中克子，西尾ゆかり：成人期アトピー性皮膚炎患者のストレス内容に関する文献的研究，第 9 回日本慢性看護学会学術集会，A76,（高槻） 西尾ゆかり，カルデナス暁東，田中克子：膠原病をもつ患者に関する看護研究の動向－過去10年間の文献検討－，第9回日本慢性看護学会学術集会，第9回日本慢性看護学会学術集会抄録集，A77,（高槻） カルデナス暁東，田中克子，西尾ゆかり：皮膚症状のある成人期女性患者の精神心理状態の改善をもたらすメイクセラピー看護援助,第9回日本慢性看護学会学術集会，A61,（高槻）
土手友太郎	土手友太郎，中山紳，玉置淳子（2015）：特定健診の積極的支援該当者における行動変容ステージ別の検査結果の推移および良好な生活習慣該当者割合の比較検討，第88回日本産業衛生学会講演集，57，438,（大阪） 土手友太郎，中山紳，小林利寛，他（2015）：40歳以上の男性の積極的支援該当者における行動変容ステージ別の検査結果の推移および良好な生活習慣該当者割合の比較検討,第56回日本人間ドック学会プログラム・抄録集,30,387,（横浜） 土手友太郎，中山紳，小林利寛，他（2015）：積極的支援該当者における行動変容ステージ別の検査結果および生活習慣の縦断的検討，第74回日本公衆衛生学会総会抄録集，62，275,（長崎）

	山埜ふみ恵，草野恵美子，土手友太郎，他（2015）：介護予防に関する行動変容の段階別にみた地域高齢者の特徴, 第 74 回日本公衆衛生学会総会抄録集，62, 368,（長崎）
泊祐子	川島美保，大西文子，山田恵子，野口賀乃子，泊祐子，竹村淳子，岩間恵，西薗貞子（2015）：小児看護学実習における理論と実践の統合を目指した指導方法－よくみる問題状況の特徴と効果的な指導－，日本看護学教育学会第 25 回学術集会講演集，109,（徳島） 秋元典子，森田敏子，大塚眞理子，佐藤正美，泊祐子，石井範子，岡山寧子，雄西智恵美，川原礼子，水野照美，和住淑子（2015）：採択される論文を書くために～不採用理由の分析と看護学教育研究における論旨の一貫性～，日本看護学教育学会第 25 回学術集会講演集，75,（徳島） 上別府圭子，池田真理，山本則子，森元陽子，安塚則子，泊祐子（2015）：続　事例研究を投稿しよう－査読に対して、掲載に至るまで－，日本家族看護学会第 22 回学術集会プログラム・抄録集，62,（小田原） Kana Nakamura, Yuko Tomari, Junko Takemura, Ayumi Yamazaki, Hiromi Kuwata (2015): Nursing for Supporting the Self-Control of Adolescent Type Ⅰ Dibetes Patients in Japan, Poster SessionⅡ :Obesity, Endocrinology, Gastroenterology & Nutrition,127,（オスロ） Ayumi Yamasaki, Yuko Tomari (2015): Human Environments and Self-Care Activities in School Life for Patients with Type1 Diabetes that Developed in Lower Grades of Elementary School: Poster SessionⅡ :Obesity, Endocrinology, Gastroenterology & Nutrition, 126,（オスロ）
道重文子	Fumiko Michishige, Akiko Hara, Toshimi Kawakita (2015): Health Consultation Activities Aimed to Enable the Elderly in Japan to Continue Living in Local Communities, International Council of Nurses, (Soul) Toshimi Kawakita, Akiko Hara, Fumiko Michishige (2015): Association between job characteristics and job satisfaction in nurses, 4th International Conference on Nursing & Healthcare, 120, (San Francisco) Akiko Hara, Junko Matsuo, Toshimi Kawakita, Fumiko Michishige, Koichi Yabunaka (2015): Positional relationship between nerves and arteries in the cubital fossa during venipuncture: An ultrasound image-based study, 4th International Conference on Nursing & Healthcare, 121, (San Francisco) 川北敬美，原明子，道重文子（2015）：中小規模病院に勤める看護師のキャリアに関する研究 ―地方と都市部の比較検討―，日本看護研究学会雑誌，38(3)，308，（広島） 原明子, 川北敬美, 松尾淳子, 道重文子（2015）: 血管の深さによる静脈穿刺角度の検討―超音波画像による評価―，日本看護研究学会雑誌，38（3），182.（広島） 道重文子，原明子，川北敬美，仲前美由紀（2015）：口腔周囲皮膚温の変化からみた口腔衛生ケアの効果，日本看護研究学会雑誌，38(3)，222,（広島） 米澤千恵，道重文子（2016）：舌苔の評価方法に関する文献検討と今後の課題，日本看護研究学会第 29 回近畿・北陸地方会学術集会，40，（京都）

元村直靖	元村直靖，金吉晴，田中究：PTSD 治療の最前線　第 111 回精神神経学会シンポジウム　2015，2015，6.21-24，（大阪） 黒田健司，梶本宜永，元村直靖，大村知久，二階堂泰隆，大野博司，辻翔平，田村裕子，土井あかね，小金丸聡子，佐浦隆一：特発性正常水頭症における聴覚性注意検査の検討ーベースラインとシャント術後の変化ー，第 39 回日本高次機能障害学会学術総会，2015，12.10-11，（東京）
吉田久美子	山埜ふみ恵，草野恵美子，土手友太郎，吉田久美子（2015）：介護予防に関する行動変容の段階別にみた地域高齢者の特徴，第 74 回日本公衆衛生学会総会抄録集，62，368，（長崎）
カルデナス暁東	塚原光子，西尾ゆかり，カルデナス暁東，田中克子：成人期におけるアトピー性皮膚炎患者に関する看護研究の動向，第 9 回日本慢性看護学会学術集会，A76，（高槻） 櫻本弓恵，カルデナス暁東，田中克子，西尾ゆかり：成人期アトピー性皮膚炎患者のストレス内容に関する文献的研究，第 9 回日本慢性看護学会学術集会，A76，（高槻） 西尾ゆかり，カルデナス暁東，田中克子：膠原病をもつ患者に関する看護研究の動向ー過去 10 年間の文献検討ー，第 9 回日本慢性看護学会学術集会，第 9 回日本慢性看護学会学術集会抄録集，A77，（高槻） カルデナス暁東，田中克子，西尾ゆかり：皮膚症状のある成人期女性患者の精神心理状態の改善をもたらすメイクセラピー看護援助，第 9 回日本慢性看護学会学術集会，A61，（高槻）
草野恵美子	山埜ふみ恵，草野恵美子，土手友太郎，吉田久美子，谷川ルツ子，阿部利奈，岸野裕方（2015）：介護予防に関する行動変容の段階別にみた地域高齢者の特徴，第 74 回日本公衆衛生学会総会抄録集，368，（長崎） 草野恵美子（2015）：シンポジウム「乳幼児健診の現状と未来～「健やか親子 21（第 2 次）」の推進に向けて」，乳幼児健診における標準的な保健指導，第 74 回日本公衆衛生学会総会抄録集，119，（長崎） 土手友太郎，中山伸，小林利寛，玉置淳子，吉田久美子，草野恵美子，月野木ルミ，山埜ふみ恵（2015）：積極的支援該当者における行動変容ステージ別の検査結果および生活習慣の縦断的検討，第 74 回日本公衆衛生学会総会抄録集，275，（長崎） 林ゆかり，箱﨑麻里，草野恵美子（2016）：大阪市中央区の繁華街に居住する妊婦の特徴，第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集，174，（東京） 中山貴美子，小寺さやか，草野恵美子，鳩野洋子，金子仁子（2016）：地区組織のコミュニティ・エンパワメントを支援するモデルの検討，第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集，236，（東京）
竹村淳子	Junko Takemura, Hiroe Tsushima, Yuko Tomari, Hiromi Kokabu (2015): Nursing Support for Parents of children with Severe Motor and Intellectual Disabilities who Struggle with the Decision Making about Treatment for Secondary Impairments, IASSIDD Conference, A-25, (Honolulu)

	川島美保，大西文子，山田恵子，野口賀乃子，泊祐子，竹村淳子，岩間恵，薗貞子（2015）：小児看護学実習における理論と実践の統合を目指した指導方法－よくみる問題状況の特徴と効果的な指導－，日本看護学教育学会第 25 回学術集会，109，（徳島） Kana Nakamura, Yuko Tomari, Junko Takemura, Ayumi Yamazaki, Hiromi Kuwata (2015): Nursing for Supporting the Self-Control of Adolescent Type 1 Diabetes Patients in Japan, European Academy of Paediatrics, 48, (Oslo)
松尾淳子	Akiko Hara, Junko Matsuo, Toshimi Kawakita, Fumiko Michishige, Koichi Yabunaka (2015): Positional relationship between nerves and arteries in the cubital fossa during venipuncture: An ultrasound image-based study, 4th International Conference on Nursing & Healthcare, 121, (San Francisco) 原明子，川北敬美，松尾淳子，道重文子（2015）：血管の深さによる静脈穿刺角度の検討―超音波画像による評価―，日本看護研究学会雑誌，38（3），182，（広島） 山田真乃華，松尾淳子，炭本由佳，倉増理帆，橋本真希，橋本美香，西山順子（2015）： 要介護者におけるずれ測定方法の検討，第 17 回日本褥瘡学会学術集会集，17(3)，421，（仙台） 田邊将之，松尾淳子，瀧井道明，原明子，藪中幸一（2015）：保健画像工学への展開，超音波信号を用いた大腸内容物の分類に関する研究，第 34 回日本医用画像工学会抄録集，（金沢） 松尾淳子（2015）：泌尿器科疾患の診療プロセスにおける超音波検査の役割　看護ケアの新たな展開～超音波診断装置の活用～（第 40 回日本超音波検査学会との共同企画），日本超音波医学会第 88 回学術集会抄録集，64，（品川） 松尾淳子（2015）：看護ケア診断の決め手！看る→視る，第 11 回三大学医工薬連環科学シンポジウム，（大阪医科大学）
瓜﨑貴雄	岡部英子，荒木孝治，瓜﨑貴雄，正岡洋子，伏見博之（2015）：統合失調症患者の身体合併症を早期に発見するための看護研修プログラムの効果の検討，日本精神保健看護学会第 25 回学術集会，126，（つくば）
竹明美	竹下夏美，竹明美，高山（2016）：インドネシアにおける公的医療制度導入後の現状と課題，第 30 回日本国際医療保健学会学術大会 2015 抄録集，78，（金沢） 佐々木綾子，竹明美（2016）：回旋異常の診断と対応・ケアに関する文献検討，第 30 回日本助産学会学術集会抄録集，614，（京都）
月野木ルミ	月野木ルミ（2015）：若手研究者として挑戦的取り組み―生活習慣病対策における疫学・保健統計の活用と健康教育の開発および評価，日本看護科学学会，（広島）
寺口佐與子	Sayoko TERAGUCHI, Chiharu AKAZAWA, Teiko NISHIZONO, Masako HIGO, Chitose ARAKAWA, Masae YAMAMOTO (2015): Years since transplant and quality of life for living-donor liver transplant recipients: The 14th congress of the Asian Society of transplantation, 1519, (Shingapore) Chiharu AKAZAWA, Sayoko TERAGUCHI, Teiko NISHIZONO, Chitose ARAKAWA,

	Masae YAMAMOTO (2015): How living-Donor liver transplant recipients self-management behavior is affected by number of years since transplantation, The 14th Congress of the Asian Society of Transplantation, (Shingapore) Teiko Nishizono, Chiharu Akazawa, Sayoko Teraguchi, Chitose Arakawa (2015): The Current Situation of Self-Management of Recipients Who Received Transplants More Than Five Years Ago, The 14th congress of the Asian Society of transplantation, (Shingapore)
西薗貞子	Teiko Nishizono, Chiharu Akazawa, Sayoko Teraguchi, Chitose Arakawa (2015): The Current Situation of Self-Management of Recipients Who Received Transplants More Than Five Years Ago, CAST, (Singapore) Chiharu Akazawa, Sayoko Teraguchi, Teiko Nishizono, Chitose Arakawa, Masae Yamamoto (2015): How Living-Donor Liver Transplant Recipient's Self-management Behavior is Affected by Number of Years Since Transplantation, CAST, (Singapore) Sayoko Teraguchi, Chiharu Akazawa, Teiko Nishizono, Masako Higo, Chitose Arakawa (2015): Years-Since-Transplant and Quality of Life for Living-Donor Liver Transplant Recipients, CAST, (Singapore) Teiko Nishizono (2015): University Students Majoring in Nursing and the Relationship between Occupational Career Readiness and Self-Directed Learning Readiness through Progression into Higher Grade-Levels, (Tsukuba) 川島美保，大西文子，山田恵子，野口賀乃子，泊祐子，竹村淳子，岩間恵，西薗貞子（2015）：小児看護学実習における理論と実践の統合を目指した指導方法ーよくみる問題状況の特徴と効果的な指導ー，日本看護学教育学会第 25 回学術集会，109，（徳島）
畑中あかね	畑中あかね（2015）：血糖管理に積極的に取り組んだ下降期にある糖尿病患者の支援，第 8 回日本慢性看護学会，A74，（大阪） 小林貴子，雪本和佳子，畑中あかね，小林道太郎，西本典子（2015）：地域に開放した事例検討会の意義　訪問看護の一事例の検討を通して，第 8 回日本慢性看護学会，A83，（大阪） 長谷川梨都子，貞山真有香，木谷優希，井上優美，畑中あかね（2015）：記録から捉えた退院後の 2 型糖尿病患者が抱える困難，第 20 回日本糖尿病教育・看護学会，188，（香川） 畑中あかね（2015）：シンポジウム８在宅におけるフットケア，第 13 回日本フットケア学会年次学術集会，座長，51，（東京） 畑中あかね（2015）：実践知を紡ぐ　事例に基づく看護の可視化、糖尿病合併症進行期における患者の看護―合併症を複数もつ患者の事例からー，第 20 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，シンポジスト，72，（香川） 畑中あかね（2015）：交流集会「外来療養指導の実態を共有しよう！糖尿病患者さんのニーズに応える療養指導とは？」，第 20 回日本糖尿病教育・看護学会，（香川）

	村角直子, 中尾美幸, 西垣昌和, 中濱多紀, 畑中あかね, 松田佳美, 内海香子, 山本裕子, 清水安子, 住吉和子（2015）：交流集会「日頃の実践を投稿しよう！～投稿の悩み相談～」，第 20 回日本糖尿病教育・看護学会，（香川）
横山浩誉	土手友太郎，小林利寛，横山浩誉，他（2015）：40 歳以上の男性の積極的支援該当者における行動変容ステージ別の検査結果の推移および良好な生活習慣該当者割合の比較検討，第 56 回日本人間ドック学会プログラム・抄録集，30，387，（横浜）
上山ゆりか	小林寛子，上山ゆりか，塚田夏美他（2015）：悪性脳腫瘍患者に関する看護研究の動向と課題，第 30 回日本がん看護学会，（千葉）
川北敬美	Toshimi Kawakita, Akiko Hara, Fumiko Michishige (2015): Association between job characteristics and job satisfaction in nurses, 4th International Conference on NURSING & HEALTHCARE, 120, (San Francisco) 川北敬美（2015）：雇用形態からみた看護師の成長欲求，職務特性・職務満足の差異，第 19 回日本看護管理学会学術集会抄録集，241，（福島） 川北敬美，原明子，道重文子（2015）：中小規模病院に勤める看護師のキャリアに関する研究―地方と都市部の比較検討―，日本看護研究学会雑誌，38(3)，（広島）
佐野かおり	佐野かおり，後藤公志，杉本正幸（2015）：股関節鏡視下術後患者の術前後における生活実態調査，第 42 回日本股関節学会学術集会，390，（大阪）
曽我浩美	鈴木晃代，後藤多代，林伸子，山田葉子，長屋由美，曽我浩美（2015）：左利き医師が執刀する手術における持針器操作マニュアルの作成，第 46 回日本看護学会学術集会 - 急性期看護，152，（松山） 三輪綾子，山田葉子，大宮妙子，曽我浩美（2015）：乳癌検診受診の実態および検診の有効性の検討, 第 46 回日本看護学会学術集会 - ヘルスプロモーション，343，（富山）
原明子	原明子，川北敬美，松尾淳子，道重文子（2015）：血管の深さによる静脈穿刺角度の検討―超音波画像による評価―, 日本看護研究学会第 41 回学術集会, 182，（広島） Akiko Hara, Junko Matsuo, Toshimi Kawakita, Fumiko Michishige, Koichi Yabunaka (2015): Positional relationship between nerves and arteries in the cubital fossa during venipuncture : An ultrasound image-based study, 4th International Conference on Nursing & Healthcare, (San Francisco)

研究活動/【その他】

泊　祐子	泊祐子（2015）：医療的ケアを必要とする子どものSocial Well-beingと家族看護，保健の科学，57(10)，677-682. 泊祐子（2015）：医療的ケアを担う看護師が直面する困難と課題，教育と医学，64(1)，70-79.
林　優子	谷本真理子，瀬戸奈津子，添田百合子，高橋奈美，林優子（2015）：慢性疾患患者の生命維持療法意思決定支援の実態と今後の課題,第9回日本慢性看護学会学術集会交流集会，Ⅰ，A45，(大阪)
道重文子	道重文子（2015）：口の健康は命の源－口腔ケアで肺炎予防①　第1回肺炎予防に求められた口腔ケアの変遷，大阪歯科保険新聞，第1212号(4). 道重文子（2015）：口の健康は命の源－口腔ケアで肺炎予防②　第2回効果的な口腔ケアの方法，大阪歯科保険新聞，第1215号(4). 道重文子（2015）：口の健康は命の源－口腔ケアで肺炎予防③　第3回肺炎予防における歯科の役割と期待，大阪歯科保険新聞，第1218号(4).
松尾淳子	松尾淳子（2015）：研究テーマはつねに臨床現場にある，医師の哲学，朝日新聞，第47996号(33). 松尾淳子（2016）：明日からできるナースエコー，日経Aナーシングオンライン.
月野木ルミ	月野木ルミ（2015）：患者調査に基づく東日本大震災が疾病に与えた影響,「医療の広場」，55(4)，22-24.
畑中あかね	畑中あかね（2015）：【患者中心医療のための糖尿病患者評価-基本的な病態と療養指導】 糖尿病に関する知識の評価と療養指導，内分泌・糖尿病・代謝内科，40(1)，43-48. 井上裕美、畑中あかね（2015）：【基本知識から外来開設・運営のコツまでを伝授! 糖尿病フットケア外来の知識・手技・連携】必須のケアからシステム立ち上げまで!フットケア外来のイロハ　足のアセスメント，糖尿病ケア，12(3)，234-237. 畑中あかね、井上裕美（2015）：【基本知識から外来開設・運営のコツまでを伝授! 糖尿病フットケア外来の知識・手技・連携】必須のケアからシステム立ち上げまで!フットケア外来のイロハ　基本の検査，糖尿病ケア，12(3)，238-241. 畑中あかね、井上裕美（2015）：【基本知識から外来開設・運営のコツまでを伝授! 糖尿病フットケア外来の知識・手技・連携】必須のケアからシステム立ち上げまで!フットケア外来のイロハ　基本の手技，糖尿病ケア，12(3)，242-248.
川北敬美	川北敬美（2015）：メディカコンクール2017年受験者対象基礎学力到達度チェックテスト，メディカ出版. 川北敬美（2015）：メディカコンクール第105回看護師国家試験対策テスト第1回，メディカ出版. 川北敬美（2015）：メディカコンクール第105回看護師国家試験対策テスト第2回，メディカ出版. 川北敬美（2015）：メディカコンクール第105回看護師国家試験対策テスト第3回，メディカ出版.

VI.　社会活動

社会活動

赤澤千春	日本移植・再生医療看護学会　庶務理事，理事長 日本移植・再生医療看護学会査読委員 日本看護研究学会評議員 日本看護研究学会査読委員 日本教育看護学会査読委員
荒木孝治	日本精神保健看護学会誌専任査読委員 日本移植・再生医療看護学会誌専任査読委員 日本看護研究学会評議員 日本看護研究学会編集委員 日本看護研究学会誌専任査読委員 大阪府看護協会開催看護学会抄録選考協力員 大阪府立精神医療センター治験審査委員会外部委員 大阪府立精神医療センター臨床研究倫理審査委員会外部委員
小林貴子	第 9 回日本慢性看護学会学術集会企画委員 第 9 回日本慢性看護学会学術集会特別講演Ⅱ座長（2015.7）（高槻） 高槻市地域包括ケア推進会議委員
佐々木綾子	助産管理，第 17 回日本母性看護学会学術集会集録集座長（東京） 第 30 回日本助産学会学術集会座長（京都） 第 35 回日本看護科学学会学術集会講演集査読（広島） 第 30 回日本助産学会学術集会査読（京都） 福井愛育病院看護研究セミナー「もっと気軽に看護研究！研究プロセスの実践編」7 回 福井愛育病院看護研究発表会講評 大阪医科大学看護研究交流集会「看護研究計画書ラクラク作成のためのコツ！」2015 第 34 回日本看護科学学会査読委員 2015 年 第 30 回日本助産学会査読委員 2015 年 日本母性看護学会会計理事 2015 年
鈴木久美	日本がん看護学会理事 日本看護科学学会代議員 日本慢性看護学会評議員 日本がん看護学会誌専任査読委員 日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員 日本看護系大学協議会文部科学省委託事業プロジェクト委員 愛知県立大学大学院非常勤講師 岐阜県立看護大学大学院非常勤講師 乳がん看護認定看護師教育課程非常勤講師 がん化学療法看護認定看護師教育課程非常勤講師

瀧井道明	日本内科学会認定内科医,総合内科専門医,近畿地方会評議員 日本消化器病学会専門医,近畿支部評議員,本部学会評議員 日本消化器内視鏡学会専門医,指導医,近畿支部評議員 日本肝臓学会認定専門医 日本超音波医学会認定超音波専門医,指導医 日本消化吸収学会評議員 日本安定同位体・生体ガス医学応用学会評議員 ^{13}C 法消化吸収能&肝代謝能検査標準化に向けた検討委員会委員 日本医師会認定産業医 大阪医科大学医師会雑誌編集委員会編集委員 大阪医科大学第二内科兼担医局員 大阪医科大学第二内科春洋会幹事
田中克子	日本糖尿病学会近畿地方会第 52 回近畿地方会座長
土手友太郎	日本産業衛生学会代議員 日本衛生学会評議員 日本職業災害医学会評議員 高槻市都市開発・高槻市ホテル等建築・高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会委員 健康たかつき 21 推進ネットワーク会議委員 厚生労働省医員（関西空港検疫所・大阪検疫所） 高槻市役所産業医
泊祐子	日本家族看護学会　理事，編集委員会委員長 日本看護研究学会　理事，渉外担当 看護系学会等社会保険連合（看保連）委員 日本看護研究学会専任査読者 日本看護学教育学学会評議員，編集委員会委員 日本看護学教育学学会専任査読者 日本小児保健協会査読委員 第 22 回日本家族看護学会学術集会一般演題座長，2015.9.6,（小田原） 日本看護研究学会第 41 回学術集会一般演題座長，2015.8.22,（広島） 和歌山県立医科大学大学院看護学研究科非常勤講師 川崎医療福祉大学大学院保健学研究科非常勤講師 聖泉大学大学院看護学研究科非常勤講師
林優子	日本看護科学学会代議員 日本慢性看護学会評議員 日本慢性看護学会査読委員 日本移植・再生医療看護学会理事長（平成 27 年 10 月まで） 日本移植・再生医療看護学会編集委員会委員長（平成 27 年 11 月～） 日本移植・再生医療看護学会倫理検討委員会委員 日本看護学教育学会評議員

	日本看護学教育学会査読委員 認定レシピエント移植コーディネーター認定合同委員会委員 日本私立看護系大学協会理事 日本私立看護系大学協会大学運営・経営委員会委員長 第 9 回日本慢性看護学会学術集会（大阪医科大学）会長講演：病院と在宅・地域をつなぐ慢性看護－臨床と在宅の協働を見据えて－ 第 29 回近畿・北陸地方会学術集会（京都光華女子大学）教育講演座長 岡山県看護協会講師（看護研究）
道重文子	日本看護研究学会監事 日本口腔ケア学会評議員 日本看護診断学会評議員 大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル，講師，「看護管理実践計画書作成」，2015 京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル「グループマネジメント」講師，2015 第 12 回口腔ケア学会学術大会一般演題座長，2015.6.28，（下関） 大阪府歯科保険医協会研修会，講師，「口の健康は命の源　～口腔ケアで肺炎予防～」，2015.7.12 日本看護研究学会第 41 回学術集会一般演題座長，2015.8.22，（広島） 堺市障害者・休日急病・在宅歯科診療合同研修会，講師，「要介護高齢者が元気になる口腔ケア」，2015.10.17
元村直靖	日本保健医療行動科学会評議員 日本神経心理学会雑誌編集委員 日本行動療法学会誌編集委員 日本トラウマティックストレス学会理事 日本神経心理学会評議員 日本高次脳機能障害学会評議員 International Journal of Child Development and Mental Health（Editorial board） Honorary adviser: Raganagarindre research center（Thailand）
吉田久美子	日本看護医療学会評議委員 日本看護医療学会査読委員 滋賀県彦根市要保護児童対策協議会副会長 高槻市保健師人材育成ガイドライン作成委員 滋賀県彦根市児童虐待防止シンポジウム「生きる－今、自分にできること、子育てを考える」講演・座長 第 37 回藤原九十郎賞表彰記念シンポジウム座長「今も昔も－みる・つなぐ・動かす」―私の保健師としての実践活動― 愛知県知多郡民生委員児童委員連盟講演会　講師　「子どもの笑顔が輝くまちづくり－今・私たちにできること」

	高槻市保健師研修会　講師「基本的実践能力を獲得するために、キャリアラダーの観点を学ぶ」 平成 27 年度産後ケアエキスパート助産師認定講習会　講師　「家族看護及び家庭訪問技術」2 回 滋賀県彦根市健康推進課　保健師研修会　スーパーバイザー「ハイリス久母子事例検討会」2 回
カルデナス暁東	日本糖尿病学会 近畿地方会　第 52 回近畿地方会　座長
草野恵美子	社団法人大阪府看護協会調査研究倫理審査会委員 日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員 高槻市聖ますます元気会 3 周年記念総会・講演会，講師，「シニア世代による主体的な健康づくりと地域ぐるみでの取り組みの意義～「聖ますます元気会」の活動から学んだこと～」 京都市平成 27 年度京都市母子保健業務説明会（こんにちはプレママ事業研修会），講師，「妊娠期からの切れ目ない支援の必要性～児童虐待予防・子育て支援の視点から～」 高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師，「持続可能な地域（住民）主体の介護予防活動にむけて」 高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師，「PDCA に基づいた介護予防教室～今年度の評価と次年度計画への反映～」 厚生労働省主催:平成 27 年度 標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引きについての研修～「健やか親子２１（第 2 次)」の達成に向けて～，講師，「標準的な保健指導・支援」
竹村淳子	看護研究講師（高槻病院看護部） 日本家族看護学会学会誌専任査読者 聖泉大学看護学部学術誌査読委員（外部）
松尾淳子	日本褥瘡学会評議員 日本創傷・オストミー・失禁管理学会評議委員 日本創傷治癒学会評議委員 看護理工学会評議委員
真継和子	日本看護学教育学会専任査読委員 日本家族看護学会編集委員会委員 日本看護研究学会近畿･北陸地方会世話人 社団法人大阪府看護協会教育委員会教育委員長 特定医療法人西陣健康会堀川病院看護部倫理委員会外部委員 NPO 法人 SEAN 役員（監事） 大阪府看護協会大阪府看護教員養成講習会講師 京都私立病院協会看護中間管理者研修Ⅰ講師 京都私立病院協会准看護師研修講師 大阪医科大学附属病院看護部在宅看護研修講師

	和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科非常勤講師
瓜﨑貴雄	日本精神科看護協会大阪府支部看護研究発表会　評価　査読委員 大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程「救急患者と家族の心理・社会的アセスメント」非常勤講師 大阪医科大学看護学部看護実践研究センター看護研究交流集会「質的研究のここがわかりにくい！データのまとめ方のコツ」講師
竹明美	第 30 回日本助産学会学術集会，査読（京都）
月野木ルミ	日本公衆衛生学会モニタリングレポート委員会生活習慣病･メタボリックシンドロームグループ，公衆栄養グループ，メンバー 日本公衆衛生雑誌査読委員 The Japan Journal of Nursing Science, Reviewer 滋賀医科大学看護学科客員講師 滋賀医科大学看護学科非常勤講師 立命館大学産業社会学部非常勤講師
寺口佐與子	日本移植・再生医療看護学会選挙管理委員 日本移植・再生医療看護学会広報委員
西薗貞子	日本移植・再生医療看護研究学会評議員 日本移植・再生医療看護研究学会査読委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人 日本看護研究学会第 29 回近畿・北陸地方会学術集会実行委員
畑中あかね	第 14 回日本フットケア学会年次学術集会座長（神戸） フットケアのためのアセスメント（演習 1），事例分析と評価（演習 2），大阪府看護協会　糖尿病重症化予防フットケア研修講師，8 月 8・9 日 看護サービス提供論（看護サービスの質の評価と改善），大阪府看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修講師，8 月 1 日，10 月 21 日，12 月 16 日 糖尿病患者の薬物治療，大阪府看護協会糖尿病看護シリーズ 2　薬物療法と生活調整，8 月 20 日・21 日 糖尿病の合併症ケアー網膜症、神経障害、腎症を持つ患者に学ぶ（中堅コース），学研メディカルサポート（オンライン研修） 糖尿病患者の療養を支えるフットケア，日本フットケア学会糖尿病重症化予防（フットケア）研修講師（久留米），10 月 24 日 爪のケア，日本フットケア学会フットケア指導士実技講習会（久留米），10 月 25 日 糖尿病患者の QOL を高めるセルフケア支援，兵庫県看護協会研修講師，11 月 10 日 日本糖尿病教育・看護学会　評議員，学会誌編集委員，政策委員 第 20 回日本糖尿病教育・看護学会企画委員 日本慢性看護学会評議員

	日本フットケア学会　評議員，専任査読者，研修委員 日本糖尿病療養指導士認定機構ガイドブック編集委員 慢性疾患看護専門看護師研究会　幹事，学術動向・学会対策委員
横山浩誉	高槻市介護認定審査会委員
川北敬美	京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル「グループマネジメント」 ／演習ファシリテーター
肥後雅子	日本移植・再生医療看護学会選挙管理委員

Ⅶ.　地域・社会貢献

地域・社会貢献

赤澤千春	大阪医科大学訪問看護ステーション研修　「リンパ浮腫のケアについて」 医療法人康生会武田病院新人研修(年間),ファシリテーター研修講師
小林貴子	認知症を理解し地域で支える会主催,大阪医科大学看護学部・高槻市他後援 「第 10 回認知症の人と家族のための情報交流会と相談会」(2015.7) 企画運営 研修会「認知症になっても自分らしく生きる」(2015.9.19) 企画・運営･進行 「第 11 回認知症の人と家族のための情報交流会と相談会」(2015.11) 企画運営 「第 12 回認知症の人と家族のための情報交流会と相談会」(2016.3) 企画運営 社会福祉法人成光苑第 11 回研究発表会　講師 (2016.2.)
佐々木綾子	大阪医科大学リプロダクティブヘルスケア研究会運営，2015 年 12 月 15 日 新生児サポーター養成講座運営・講師，2015 年 12 月 22 日
鈴木久美	鈴木久美：在宅医療におけるがん看護の役割と薬剤師との連携，平成 24 年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業，大阪薬科大学第 10 回公開シンポジウムシンポジスト，9，2016.2.14，(大阪) 乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会（患者会）世話人 なにわ乳がんを考える会世話人
田中克子	中国山西医科大学第一附属病院、山西省人民病院との学術交流会
泊祐子	岐阜県重症心身障がい児者看護人材育成研修会,「重症心身障がい児者の看護概論」講義 大阪医科大学看護学部家族看護研究会主催（平成 23 年より） 岐阜県重症心身障がい児者家族支援研究会主催（平成 27 年より）
林優子	学校法人大阪医科大学評議員
道重文子	ＮＰＯ阪神高齢者・障害者支援ネットワーク，ふれあい喫茶での健康相談
カルデナス暁東	中国山西医科大学第一附属病院，山西省人民病院との学術交流会 柏原市民病院看護研究講師
草野恵美子	大阪市鶴見区保健福祉センター，研究指導協力 大阪市中央区保健福祉センター，研究指導協力
竹村淳子	家族看護研究会 定例会開催（大阪医科大学看護学部小児看護学領域主催） 学士課程教育に関する研究会　定例会開催(大阪医科大学看護学部小児看護学領域・日本赤十字豊田看護大学共同) 看保連ワーキング（障がい児プロジェクト）研究会　定例会（日本看護研究学会研究助成）
松尾淳子	第 15 回四国褥瘡ケア研究会教育講演講師「看護の力でできる！体圧分散ケアのひと工夫」 CAPE 褥瘡ケアセミナー講師（函館，相模大野，つくば） 立命館大学理工学部医療・看護・介護を支援する IRT キックオフセミナー講師
竹明美	大阪医科大学リプロダクティブヘルスケア研究会運営，2015 年 12 月 15 日
西園貞子	兵庫県立尼崎総合医療センター平成 27 年度研修会講師

	京都府後援保育士免許取得特例講座講師
西頭和子	高槻市男女共同参画課講座講師 大阪医科大学リプロダクティブヘルスケア（Reproductive Health Care）研究会運営委員
畑中あかね	糖尿病看護認定看護師阪神の会会長 大阪糖尿病看護研究会事務局
横山浩誉	認知症を理解し地域で支える会主催, 大阪医科大学看護学部・高槻市他後援 日本光電 IT ソリューションセミナー　講師（2015.10.）

Ⅷ.　その他

その他

赤澤千春	大阪医科大学附属病院　形成外科外来　リンパ浮腫看護外来従事
小林貴子	取材：大阪府看護協会情報誌　テアテ　Vol.7,13 頁 大阪医科大学看護事例検討会主催（共同主催者，小林道太郎） 認知症を理解し地域で支える会協力会員
佐々木綾子	平成 27 年日本助産評価機構によるクリニカルラダーレベルⅢ認定 平成 28 年 1 月 31 日放送 NHK スペシャル「ママたちが非常事態！？」，取材協力 平成 28 年 3 月 27 日放送 NHK スペシャル「ママたちが非常事態！？」Ⅱ，取材協力
林優子	科学研究費補助金基盤研究（C）（一般）：臓器移植看護における看護師の倫理的実践の変化－アクションリサーチを用いて－2014～2016(研究代表者:林優子) 関西研究会（研究会代表者：西薗貞子）:「今後、社会で求められる看護人材」の育成に向けた研究会 患者教育研究会（研究会代表者：河口てる子）：看護教育モデルの構築と実践
道重文子	関西オーラルマネジメント研究会ハンズオンセミナーの開催，2015.11.15
松尾淳子	アセスメントに生かす「エコー」講習会開催（大阪，東京）
瓜﨑貴雄	FROMPAGE 主催国公立大学･私立大学合同進学ガイダンス　夢ナビライブ 2015(大阪会場，名古屋会場）　「人の気持ちをよりよく理解するためには？」　講師
竹明美	平成 27 年クリニカルラダーレベルⅢ（アドバンス助産師）認定　日本助産評価機構
寺口佐與子	大阪医科大学病院形成外科リンパ浮腫看護外来従事
曽我浩美	大阪医科大学家族看護研究会

編集後記

本年度も「大阪医科大学看護学部年報　2015 年度」を発刊することができました。発刊におきまして先生方のご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

この 3 月に大学院看護学研究科博士前期課程が完成年度を迎え、5 名の大学院生が修了されました。これを機に大学院看護学研究科の運営および教育・研究活動の内容を看護学部年報に含めて掲載することとなりました。

先生方がご尽力いただいたこの 1 年間の大学運営への取り組みや教育・研究活動をご紹介しております。今後の活動や自己点検等に役立てていただけましたら幸いです。

最後に年報作成にご協力いただきました教員をはじめ関係各位の皆様に深くお礼申し上げます。

大阪医科大学看護学部　年報編集委員会

大阪医科大学

看護学部 2015 年度年報

発行日　平成 28 年 7 月 31 日

発　行　大阪医科大学看護学部

〒569-0095　大阪府高槻市八丁西町 7-6

編　集　看護学部　年報編集委員会

鈴木久美　津田泰宏　草野恵美子　大橋尚弘

宮崎裕子（学務部）

制　作　(有)知人社

OSAKA MEDICAL COLLEGE